

參考スベシ

七 齒槽ノ高低 齒槽堤高キ時ハ短形ナルカ或ハ基底甚ダシキ斜面ヲ呈シ幾分齒槽唇面ヲ覆蓋スルモノヲ撰ビ齒槽低キモノニハ陶齒長ク加モ基底平面ニシテ顎堤直上ニ植立セシメ得ベキモノヲ撰ブベシ

八 咬合狀態 咬合低キモノニハ短形ヲ咬合高キモノニハ長徑ヲ撰ブベシ下顎突出セルモノニハ陶齒基底ノ斜面甚ダシキモノヲ用ヒ後退セルモノニハ基底平面ニ近キモノヲ用ユ

九 齒槽ノ吸收 甚ダシク齒槽ノ吸收セルモノニハ有銀陶齒或ハ少許ノ根部ヲ附隨セルモノヲ撰ブベシ吸收少キモノハ普通ノ陶齒ニテ可ナリ但シ義齒ハ天然齒ヨリ稍ヤ小ナラシコトニ注意スベシ婦人ニ於テ殊ニ然リトス

第四十五問

陶齒ヲ銀床ニ附着スルニ方リ鐵着法ト硫化護膜附着法トノ優劣ヲ記シ併セテ其理由ヲ示セ

純銀ハ柔軟ニ過ギテ義齒床ニ適セズ殊ニ硫化護膜ト共ニ蒸和スレバ其四二%ヲ亡失シ破壞スルニ至ル故ニ普通五乃至一〇%ノ銅ヲ加ヘタルモノヲ用ユ一〇%ノ銅ヲ加ヘタルモノ

ノハ其亡失五%ニ止ル今兩法ヲ比較スレバ

鐵 着 法

一 優レル點

- 1 鐵着ノ際床ヲ損セズ確實ニ附着スルヲ得
- 2 堅固ニシテ容易ニ破壞セズ
- 3 稍ヤ汚物ヲ停帶スルノミナリ
- 4 少量ノ鐵ヲ以テ完全ニ附着スルヲ得殆ンド如何ナル咬合ニモ用ユルヲ得

二 劣レル點

- 1 製作複雜困難ナリ
- 2 口腔ノ化學的作用ニ侵サレ其結果齒ノ色澤ヲ變ズ

硫化護膜附着法

一 劣レル點

- 1 附着ノ際床ヲ損シ附着確實ナラズ
- 2 破壞シ易シ
- 3 床ト蒸和護膜トノ間ニ汚物停帶ス
- 4 護膜ノ多量ヲ附着スルガ故ニ不快ノ感アリ且ツ咬合關係ニヨリテハ使用スルヲ得ス

二 優レル點

- 1 製作簡易ナリ
- 2 口腔ノ化學的作用ニ侵サレズ

3 高熱ヲ與フルニヨリ陶齒ヲ脆弱ナラシム

4 義齒ニ重量ヲ與フルガ故ニ上顎ニ於テハ稍ヤ維持力ヲ減ズ

其優劣ハ上記ノ如ク一目瞭然ニシテ鐵着ノ優レルコト萬々ナリ然レドモ銀床ニ白金或ハ「ニッケル」ヲ加ヘタル時ハ大ニ硫化護膜附着法ノ缺點ヲ濟スヲ得ベシ

第四十六問 金床義齒ノ製作法

一 鑄型製作 先ツ通法ニヨリ患者ノ口腔ヲ印象シ石膏摸型ヲ造リ金屬ヲ以テ陰陽兩型ヲ製ス

二 金銀壓印 紙片或ハ錫箔ヲ取り陽型面ニ貼シ概畧將來作ルベキ床ノ形狀ニ切りテ摸床ヲ作り之ヲ金銀上ニ貼シテ同一ノ形狀ニ截取ス金銀ハ金位十八乃至二十加鍊ニシテ上顎ナラバ二十六乃至二十八番下顎ナラバ二十四五番ノ厚徑ヲ有スルモノタルベシ其金銀ヲ燒還シ酸ヲ以テ表面ヲ清淨トナシ之ヲ陽型ニ貼シ轉脱セザル樣固ク適當ナル位置ニ支持シ角製或ハ木製ノ槌ヲ以テ輕打シ陽型面上ノ凹凸ニ出來得ル丈ケ一致セシメテ床ノ概

3 低底ノ熱ニヨリ製作スルヲ得テ此弊ナシ

4 比較的輕量ナリ

形トナシ陰型ヲ其下ニ置キ重量アル槌ヲ以テ陽型基底ヲ打撃シ金銀ヲ壓印ス或ハ「ブレット」(螺旋壓抵器)ニ兩型ヲ置キ兩金屬型面ノ相接合スル迄螺旋ヲ回轉シテ壓迫ス其間時々之ヲ檢シテ位置ヲ正シ又時々燒還シテ柔軟トナシ龜裂ヲ防ギ且ツ硫酸ニ浸シテ型金屬ノ附着セルヲ除去スベシ次ニ齒頸部成形鉗子及金銀鋏ヲ以テ不要部ヲ截除シ粗糙部ヲ鑢磨シテ之ヲ口内ニ試適ス若必要アラバ「ガラスプ」ヲ鐵着シ又維持ニ空室ヲ要スル時ハ石膏摸型口蓋面ノ適位ニ空室ノ形ニ切りタル「パラフィン」ヲ附着シ之ヲ金屬型ニ顯ハシテ壓印時床ニ空室ヲ印記スベシ又床ノ口蓋部ヲ空室ノ形ニ切除シ別ニ金銀ヲ鐵着シテ空室トナス

三 陶齒排列 石膏摸型ニ就テ刮リ合セタル陶齒ヲ白金ノ薄板ニテ裏裝シ咬合關係ヲ正シツ、之ヲ金床上ニ種列シ硬鐵ヲ以テ假着シ口腔ニ試ム

四 鐵着 鐵ノ存在セル部分丈ケテ露出シ他ハ悉ク石膏ト砂又ハ石絨トノ混合物ニ埋沒シ埋沒材ノ乾固セル後熱湯ヲ以テ鐵ヲ軟化シテ除去シ鐵着部ニ硼砂ノ飽和溶液ヲ塗布シ且ツ少量ノ金鐵細片ヲ置キ次ニ全部ヲ鐵着盆ノ火焰上ニ置キ徐々ニ加熱シ埋沒材ノ紅色ヲ呈スルニ至リ吹火管ヲ以テ銳キ火焰ヲ鐵ニ與ヘテ鎔流シ尙ホ鐵ヲ追加シテ齒牙舌面ノ

豐隆ヲ形成ス

五 整美 鐵着ヲ終ラバ徐々ニ冷却シ全ク冷却セル後埋没材ヲ破壊シ稀鹽酸中ニ浸シテ酸化物及硼砂ノ附着セルヲ溶解シ去リ清水ヲ以テ洗滌シ鐵ノ過剩部及不平面ヲ鏽磨シ全部ヲ研磨シテ竣工ス

第四十七問

陶齒ヲ金床ニ附着スルニ當テ鐵着法ト硫化護膜法トノ優劣ヲ記シ併セテ其理由ヲ示セ

鐵着法

一 劣レル點

1 製作法複雜ニシテ困難ナリ

2 義齒ニ重量ヲ與フルガ故ニ上顎ニ於テハ維持力ヲ減ズ

3 陶齒ヲ附着スルト同時ニ前齒部ノ齒齦ヲ形成スルヲ得ズ却テ金色ニヨツ

硫化護膜附着法

一 優レル點

1 製作法簡易ニシテ破損セル場合ニモ修繕容易ナリ

2 比較的輕シ

3 陶齒ヲ附着スルト同時ニ齒齦ヲ形成スルヲ得

テ醜觀ヲ呈スルコトアリ

4 高度ノ熱ヲ與フル爲メ陶齒ヲ脆弱ナラシム

二 優レル點

1 堅固ニシテ永久ノ使用ニ堪ユ

2 護膜ノ附着法ニ比シテ清潔ナリ

3 少量ノ鐵着ヲ以テ完全ニ附着スルヲ得陶齒舌面ヲ過剩ニ豐隆セシムルヲ要セズ又殆ンド如何ナル咬合ニ於テモ用ユルコトヲ得

以上ノ比較ヲ見ルトキハ各一長一短アリト雖モ鐵着法ノ缺點ハ術者ノ熟練ト努力トヲ以テ償フヲ得ベキモノニシテ其特長ハ到底護膜附着法ノ企圖シ能ハザル所ナルガ故ニ鐵着法ヲ以テ優レリトス

4 高熱ヲ要セズ故ニ陶齒ヲ害スルコトナシ

二 劣レル點

1 破損シ易シ

2 床ト蒸和護膜トノ間ニ間隙ヲ生シ汚物ヲ停滯ス

3 護膜ノ多量ヲ要シ陶齒舌面ヲ豐隆セシメザルベカラズ爲メニ不快ノ感アルノミナラズ咬合關係ニヨリテハ使用スルヲ得ズ

第四十八問 蒸和ニ依リテ陶齒ヲ「アルミニウム」床ニ附着スル方法如何

- 一 壓印シタル「アルミニウム」床ノ齒槽部ニリッチモンド氏及ベック氏ノ穿孔器ヲ以テ孔及突起ヲ作り之ニ依テ維持セシム
- 二 壓印時床縁ヲ翻轉シ且空室ヲ大トナシ空室縁ト義齒床縁トノ間ニ護膜ヲ維持セシム
- 三 「チセル」ヲ以テ床ノ齒齶部ニ乳頭様ノ小突起ヲ作り之ニ依テ維持セシム
- 四 「アルミニウム」床鑄造時齒槽部ヲ繞リテ稍ヤ高カラシメ之ヲ護膜附着部ノ縁トナシ且ツ齒槽部ヲ粗糙ニシテ小突起ヲ作り之ニ依テ維持ス

(前問参照)

第四十九問 體質ト陶齒ノ形狀色トハ如何ナル關係アリヤ

其注意ハ如何

第五十問 上下兩顎總義齒ヲ製スル爲メニ施スベキ咬合假定法及

- 一 築蠟法 石膏模型上ニ假床(金床ナレバ壓印シタル床)ヲ作り齒等ニ沿フテ將來植立

スベキ陶齒ノ寸長ト同一ナル蠟堤(或ハモデリンガ、コンボジション)ヲ築キ之ヲ口腔ニ試適シ患者ヲシテ自然的ニ閉口セシム築蠟高キニ過グレバ小刀ヲ以テ蠟ヲ削リ低キニ過グレバ之ヲ添加シ尙ホ唇及頰ノ外觀ニヨリテ之ヲ整理シ後築蠟ノ人中部ニ正中線ヲ畫シ口角部ニ上顎犬齒ノ符合ヲ印シ口角ヲ横ニ擴張セシメテ小白齒ノ部位ヲ記シ尙ホ兩唇ヲ能フ限リ開展セシメテ上下ニ一線ヲ畫シ之ヲ齒頸ノ符合トス而シテ以上ノ咬合狀態ヲ維持センガタメU字形ノ鐵線ヲ熱シテ二三ヶ所ニ穿入シ兩顎ヲ保定ス後此假床ヲ口外ニ取り出シ兩模型ニ適合シ之ヲ咬合器ニ附着シ齒頸部ヲ印記シアル線迄築蠟チ一二齒分ヅ、除去シ陶齒ヲ排列スベシ此際「グリットマン」氏咬合器及スノー氏「フェスボー」ヲ應用スレバ最モ咬合ノ天然的狀態ヲ摸スルヲ得ベシ同咬合器ハ側動セシム可ク「フェイスボー」ハ齒穹三角ヲ正シク現ハス可シ

二 試適法 蜜蠟ヲ以テ上下顎ノ正當ナル咬合ヲ採得シ之ニ依テ上下兩顎ノ模型ヲ咬合器ノ正位置ニ附着シ咬合器ヲ調節シテ兩顎ノ距離ヲ適當ナラシメ次ニ假床ヲ作り陶齒ヲ排列セル後患者ノ口腔内ニ試適シテ不良ノ點ヲ修正スベシ

以上ノ咬合假定法ニ關スル注意ハ下ノ如シ(一)患者ノ咬合ハ不當ナルコト多ケレバ虚心

平氣ナル時咬合ヲ命ズベシ嚙下時ニ於ケル下顎後退ノ位置最モ可ナリ(二)二個ノ咬合アルトキハ下顎ノ後退セルモノヲ撰ムベシ(三)下顎ノ假床ハ其破損ヲ防グ爲メ金屬線ヲ入レ置クヲ宜シトス(四)陶齒植列後咬合器ヲ動カシ顎ノ運動ヲ摸シ臼磨運動等ニ於テ差支ナキヤヲ試ムベシ(五)陶齒植列ノ際始メ犬齒次ニ中切齒ヲ植ヘ漸次他齒ニ及ブベシ何トナレバ犬齒ト中切齒トハ人ノ容貌ニ大關係アルモノナルガ故ニ最モ注意ヲ要ス(六)咬合時ノ壓力ハ左右兩側ノ臼齒部ニ平均ニ加ハル様ニスベシ若シ不平均ナルトキハ床ノ接着ヲ不充分ナラシム殊ニ上顎ニ於テ然リトス(七)築嚙ハ可成的天然齒列ノ狀態ヲ摸スベシ

**第五十一問** 義齒ヲ口内ニ維持スル諸法ヲ説明セヨ

義齒ヲ口内ニ維持スル法數種アリ今其主ナルモノヲ列擧スレバ

- 一 床 單ニ齒齦及口蓋部ヲ覆フ床ノ粘膜炎ニ密着スルニ依リ數齒加之總義齒ヲモ維持シ得ルモノナリ
- 二 空室 義齒床ノ粘膜炎ニ適宜空窩ヲ作ル時ハ外氣ノ壓力ニヨリ全部義齒ヲ維持スルヲ得
- 三 鈎 健全齒ニ金屬護膜或ハ「セルロイド」ノ條片ヲ纏フモノニシテ一部義齒ノ維持ニ

甚ダ強力ナリ

- 四 合釘 床ニ合釘ヲ附シ殘齒根ノ根管ニ挿入ス釘ニ彈力線ノ一片ヲ附スレバ最モ可ナリ
- 五 加重床 義齒床ニ重量ヲ附シテ下顎義齒ヲ維持スルモノナリ之ニハ「ウヰーテットラバー」ヲ用ヒ或ハ護膜床中ニ金屬片ヲ蒸和シ或ハ全部ヲワット氏又ハウヰンストン氏合金ヨリ鑄造ス
- 六 彈力發條 上下顎總義齒ノ際螺旋發條又ハU字形彈力線ヲ臼齒部ニ附着シ其彈力ニヨリテ維持ス
- 七 齒冠繼續術 齒冠缺損シ其齒根殘存スルモノニハ人口齒冠ヲ作り合釘或ハ「バンド」ヲ付シ「セメント」ヲ以テ合着維持セシム
- 八 齒冠架工術 續續齒或ハ健全齒ヲ友臺トシテ其間ニ架工齒ヲ連結維持スルモノナリ四五ノ支臺ハ全顎義齒ヲ維持スルニ足ル

### 第五十二問

義齒床ニ用ユル空室ノ形狀原則並ニ原則ニ違反スルトキハ如何ナル結果ヲ生ズルヤ

空室ノ形状ハ適意ナレドモ概ネ「ハート」形ノ淺クシテ廣キヲ用ユ而シテ全床ノ重心ニ裝置スルヲ原則トス之ニ反スレバ其維持力甚ダ弱キモノナリ尙ホ注意スベキハ其邊緣銳利ナラズ然モ適當ノ角度ヲ有シ空氣ノ侵入シ易カラザル様ニセザル可カラズ然ラザレバ或ハ粘膜ヲ刺戟シ或ハ其維持不充分ナリ

## 第五十三問

帶鈎ニ用ユル材品ノ種類及各類ノ優劣

帶鈎ニ用フル材品ハ大別シテ金屬性及植物性トス

- 一 金 柔軟ニ過ギテ彈力性ヲ缺クガ故ニ純金ハ使用ニ適セズト雖モ銅及銀ヲ加ヘ十八乃至二十加練トナシタルモノハ適當ノ硬度及彈力性ヲ有シ最モ普通ニ用ヒラル
- 二 白金 其純粹ナルモノハ柔軟ニ過アルノ弊アリト雖モ金ト等量ノ合金トシ或ハ其少量ヲ金ニ混シテ用フルトキハ彈力性強ク鈎トシテ最モ優等ナルモノナリ又白金ニ「イリシニウム」ヲ混シ或ハ白金ノ薄板ニ金ヲ流布シテ用フルコトアリ
- 三 銀 彈性並ニ硬性ヲ缺キ且ツ口内ニ於テ化學的作用ニ犯サル、ガ故ニ通常用ユルコトナシ之ニ銅及ビ白金ノ少量ヲ混ズレバ稍ヤ使用ニ適ス
- 四 洋銀及黃銅 化學的作用ニ犯サル、コト比較的少ク彈力性ヲ有シ且ツ廉價ナルヲ以

テ屢應用セララル

五 蒸和護謨「セルロイド」床ヨリ延長シテ齒面ヲ包擁セシムヨリ齒面ニ密接シ稍ヤ彈力ヲ有シ齒牙ヲ磨耗スルガ如キコトナシト雖モ使用久時ナレバ弛緩シテ其効ヲ減ズ

## 第五十四問

鈎ノ種類名稱及ビ鈎ヲ用フル天然齒ノ鑑別

鈎ノ種類ヲ列擧スレバ

- 一 「ステアー」床ヲ延長シテ彈力ヲ有セシメタルモノナリ
- 二 單純鈎 普通使用セララル、モノニシテ金屬ノ條片ヲ以テ齒牙ヲ纏ヒ齒縁線ニ於テ新月形ヲナスモノナリ
- 三 耳狀鈎 白齒ニ用ユル齒牙ヲ纏ヒタル「バンド」ノ上部ヨリ金片ヲ突出セシメ之ヲ屈折シ咀嚼面ノ一部ヲ削リテ之ニ適合セシム
- 四 翼狀鈎 舌面ニ於テ床ト連結シ其兩端隣接面ヲ通シテ唇面ニ於テ相合シ恰モ双翼ヲ以テ齒牙ヲ包擁スルガ如キモノナリ
- 五 「スタンダード」鈎 齒冠ノ中央部ニ於テ纏ヒ一ニノ金片ニヨツテ床ニ連續スルモノナリ

六 海扇狀鈎 幅廣クシテ唇面ノ齒齶縁ヲ孤線狀ニ切除シ面頸部ヲ露ハセルモノナリ  
鈎ヲ用ユル天然齒ハ左ノ諸件ヲ具備セザルベカラズ

- 一 位置 前齒六枚ハ容易ニ人目ニ觸レテ天然ノ容貌ヲ害スルモノナルガ故ニ之ヲ避ケ白齒部ニ用ユベシ
- 二 形狀 犬齒及智齒ノ如ク圓錐形ヲナスモノ及不正ノ形狀ナルモノニ於テハ鈎滑脫シテ充分ノ効果ナシ又齒冠甚ダシク低キモノモ亦不適當ナリ一般ニ小白齒及大白齒ヲ撰擇ス殊ニ小白齒ハ圓筒形ニシテ之ニ纏ヒタル鈎ハ維持最モ確實ナリ
- 三 健否 齒膜ニ疾病アルモノ弛緩セルモノ及近傍組織ニ疾患アルモノハ使用ニ堪ヘズ其治癒ヲ待テ設置スベシ
- 四 造構 珫瑯質ノ完全ナルヲ要ス若シ其造構不完全ナル時ハ鈎ノ磨擦ニヨリ容易ニ毀損セラルベシ

第五十五問

帶鈎ヲ齒牙ニ設置スルニ如何ナル注意ヲ要スルヤ

齒牙ニ帶鈎ヲ設置スルニハ顔貌及齒牙齒齶等ヲ損害セザルヤ否ヤニ付キ注意スルヲ要ス其注意事項ハ(一)齒牙ノ位置(二)齒牙ノ形狀(三)齒質造構ノ良否(四)齒牙及近傍部ノ健

否ヲ注意撰擇スベシ(五)帶鈎ハ齒牙ニ克ク密接シテ僅少シ間隙ダモ存スベカラズ(六)帶鈎ハ齒牙ヲ強ク牽引シテ其動搖ヲ來タシ又其力緩和ニ過ギテ動搖シ齒牙ヲ磨擦スルガ如キコトナキ様注意スベシ(七)帶鈎金屬硬固ニ過ギテ齒牙ヲ磨耗スルガ如キコトアルベカラズ(八)齒頸部ヲ可成的遠ザカリタル中央部ニ設置スベシ(九)尙ホ顎ノ兩側ニ設置スルトキハ維持力ヲ平均スベキ相對ノ位置ヲ撰ムベシ(前問參照)

第五十六問

理由

「グラスプ」ヲ用ユルニ何レノ齒牙ヲ忌避スベキヤ其

四枚ノ切齒兩犬齒第一小白齒時トシテ第三大白齒ハ忌避スベシ(前問及前々問參照)

第五十七問

「クリーブランド」氏式空窩床ノ長所ヲ示セ

- 一 空窩ノ形狀大ナルト口蓋粘膜ニ接スル空窩縁明ニ角度ヲ有スルトニヨリ吸着力強大ナルコト
- 二 床ノ下面即舌ニ對スル面ハ平等滑澤ニシテ他式ノ如ク空窩隆起シ居ラザルガ故ニ舌ノ運動圓滑ニシテ不快ノ感ナキコト
- 三 二重床ナルヲ以テ風繞等ノ加力ニ對シテ強大ナル抵抗力ヲ有シ義齒床堅牢ナルコト

第五十八問 空窩式接着式各自ノ適症ヲ示セ

- 一 空窩式ハ主トシテ上顎總義齒ニ用ユ其適症ハ齒槽突起ノ甚ダシク吸收セルモノ口蓋淺クシテ到底接着式ヲ以テ維持シ能ハザルモノ及口蓋粘膜ノ硬軟適度ナルモノ等ナリ
- 二 接着式ハ齒齦及口蓋ノ著シク柔軟ニシテ空窩式ヲ應用シ得ザルガ如キモノニ用ヒテ効アリ齒齦部ノ柔軟ナルモノハ齒齦外側ニ於テ之ヲ應用シ口蓋部柔軟ナルモノハ口蓋ニ應用シ其中央部ヲ空窩狀ニ殘存スレバ能ク空窩ノ代用ヲナス可シ

第五十九問 護謨床義齒ヲ製作スルニ用ユル器械及之ヲ用フル順序ヲ示セ

- 一 印象蓋 ニ印象材ヲ盛りテ口腔ヲ印象ス
- 二 石膏煉盆及石膏筒 ナ以テ石膏ヲ煉化シ印象ニ注入シテ摸形ヲ作リ
- 三 咬合器 ニ付シテ咬合關係ヲ正シ
- 四 「レイズ」 ニ「コロンダム」ヲ附シテ陶齒ヲ割リ合セ
- 五 「グラスアホーセツプ」 ナ以テ鈎ヲ作り
- 六 「スパチュラ」 ナ以テ「パラフィン」ヲ模型上ニ流布シ假床ヲ作り陶齒ヲ植列ス

七 「フラスク」 中ニ石膏ヲ以テ埋没シ石膏ノ硬化セル後熱湯ヲ以テ假床ヲ去リ

八 護謨填入器ヲ以テ蒸和護謨ヲ精密ニ填塞シ

九 螺旋付「タンク」 中ニテ之ヲ温メ壓抵シテ「フラスク」ヲ閉鎖ス

十 蒸和罐 中ニ入レ約三百二十度ニ於テ蒸和シ後之ヲ取り出シ

十一 「スクレツパー」 罐子 ナ以テ全表面ヲ形成シ

十二 「レーズ」ノ「ブラツシ」及砂紙 等ヲ以テ研磨滑澤ナラシム

第六十問 硬護謨ノ蒸和後海綿狀ヲ呈スル理由如何

硬護謨ヲ蒸和スルニハ過急ナラザル火力ヲ以テ低温度ヨリ長時間ヲ費シテ徐々温度ヲ上昇セシメ三百度乃至三百二十度ニ至ツテ熱ノ昇降ヲ止メ三十分乃至一時間蒸和ス此蒸和ハ護謨ノ硬化スル温度ノ範圍ノ可成的低度ニ於テ長時間行フヲ長トス然ルニ若シ急劇ニ高熱ヲ加ヘ一時ニ温度ヲ上昇セシムルトキハ護謨ノ表面ノミ急ニ硬固トナリ其際發生スル硫化水素ハ内部ニ封鎖セラレテ途ニ氣泡ヲ生ジ甚ダシク其實ヲ脆弱ナラシムルモノナリ且ツ護謨填入ノ際粗雜ニシテ空隙ヲ殘スガ如キモ亦大ニ關係アリ

第六十一問 重量アル下顎義齒ノ製法



床ノ重量ニヨツテ維持セシムル下顎義齒ニ二種アリ

一 易鑄合鑲床 (別問參照)

二 加重護謨床 ハ普通ノ護謨床義齒作法ト敢テ異ル所ナシ只之ニ使用スル護謨ハ「ウエテツトラバー」ト稱シ蒸和護謨中ニ金屬ノ粉末ヲ混入シテ重量ヲ増加セルモノナリ又時トシテ普通ノ護謨床中ニ金屬線或ハ銀ヲ入レテ重量ヲ與フルコトアリ

第六十二問

蒸和シタル硬護謨ノ海綿狀ヲ呈スル理及之ヲ防グ方法

理由 (前問參照)

之ヲ防グ方法ニハ二種ノ方法ヲ以テス即チ護謨填入法及蒸和法トス

一 填入法 シモントレ氏ノ方法ヲヨシトス既ニ硬化セル護謨ヲ新護謨ト混ジテ填入スルナリ硬化護謨トハ護謨研磨時ノ屑及廢物トセル護謨床ヲ鑿削シ之ヲ軟化セラレタル新護謨中ニ填入スルナリ斯クシテ蒸和セシ床ニアリテハ決シテ海綿狀ノ變化ヲ呈スルコトナシ併シ一度蒸和シタル護謨ヲ混ズルニヨリ床ハ一層暗色ヲ呈ス又古「ゴム」トノ境界明瞭ナル弊アリ

二 蒸和法 加熱ヲ可成的緩徐ナラシムルニアリ殊ニ厚度ノ著シキ床ヲ蒸和スルトキ必

要ナリ此方法ハ二百五十度ヨリ三百二十度ニ至ルノ時間ヲ二時間乃至三四時間トシテ熱ヲ上昇セシムルコトナリ其他厚層ノ護謨ニアリテハ深層ノ部ニ酸化亞鉛白色粘土ヲ混ズベシ

第六十三問

ウエストン氏合鑲床ノ製作法及其特長ヲ示セ

常法ノ如ク印象ヲ採得シ石膏ト砂「アスベスト」大理石末ノ等分混合材ヲ以テ模型ヲ作り蠟「パラフィン」ヲ以テ可成的薄ク假床ヲ作ル但シ重量ヲ必要トスルトキハ厚カラシムベシ次ニ護謨床用有釘陶齒或ハ「カウンターサンク」有釘陶齒ヲ假床上ニ排列蠟着ス若シ一部義齒ノ咬合甚ダ密接セルモノニハ金或ハ銀板ヲ以テ裏裝シ延長シテ端ヲ假床中ニ埋入ス咬合關係適當ナラバ「フラスク」中ニ埋没ス其法ハ先ヅ同氏改良「フラスク」ノ下部ヲ硝子板上ニ置キ模型ト同一ノ材品ヲ以テ護謨床ノ埋没ト同様ニ埋没ス其部位ハ可成的合金注入口ニ遠ザカリタル部分ニ置クヲ可トス次ニ注入口ヨリ模型ニ至ル通路ヲ「スクラツパ」ニテ形成ス其深サハ上部ノ「フラスク」ト合シテ全形ヲナスモノナルガ故ニ所要ノ半ナラシム即チ假床ノ厚徑ヲ超ユベカラズ通路ハ其半ニ至ル迄次第ニ大サヲ減シ上顎ナラバ其ヨリ漸次廣カラシメ下顎ナラバ二路ニ分岐ス埋没材上面ヲ平坦トシ白堊ト水トノ

煉材ヲ塗布シ「ソープストーン」細末ヲ散布ス次テ上部「フラスク」ヲ載セ埋没材ヲ注入ス埋没材ノ硬化後少シク加温シテ蠟ヲ除キ沸湯ヲ以テ洗滌シ上部「フラスク」ノ通路部ヲ掘鑿シテ下部ト同一ノ溝ヲ作ル

「フラスク」兩部ヲ括約シテ之ヲ一時間以上加熱シ濕氣ヲ全ク脱出セシム濕氣ノ存否ハ鏡ヲ注入口上ニ醫シテ曇ヲ生ズルヤ否ヤニヨツテ判別ス尙持續加熱シ坩堝中ニ溶解セル合金ヲ注入ス「フラスク」冷却セバ之ヲ開キ義齒ヲ取り出シ過剩部ヲ鋸斷シ鑄子及「サンドペーパー」ニテ磨削シ淨石末ヲ以テ滑澤ニス

若シ上顎ニ於テ維持ニ空室ヲ要スルトキハ印象ニ於テ空室ノ形狀ヲ掘鑿シ或ハ摸型面上ニ石膏ヲ以テ空室ノ形狀ヲ築造スベシ但シ其境界ハ不定ニシテ確然タルベカラズ此合鑲床ノ特長ハ下顎義齒トシテ重量ヲ付シテ維持ヲ安全ナラシメ粘膜面ニ密接スル等ナリ

#### 第六十四問

白金床裝銀義齒トハ白金床ニ陶質ヲ以テ齒齶ヲ窯燒形成シ色澤形狀恰モ天然齒齶ノ如クナシタルモノヲ云フ

一 印象摸型 一般義齒ノ製作時ニ於ケルト異ナルナシ唯摸型ノ高徑ヲ二吋位トシ金屬

型製作ニ適當ナル樣形成スベシ後陰陽型ヲ作ル

二 白金床調製 石膏摸型ニヨツテ陰陽型ヲ作り先ヅ錫箔ヲ以テ摸床ヲ作ル其大サハ床ノ外形ヨリ少シク大ナラシム此摸型ニ就キテ白金飯(上顎ナレバ二十九番下顎ナレバ二十九番)ニ葉合セ用フ一部義齒ナレバ二十九番ニ補充飯トシテ二十六番位ノモノ追加シテ用ユ)ヲ剪裁シ能ク燒還シ陽型面ニ精密ニ壓着シ又燒還ヲ反覆シ之ヲ再ビ陽型面上ニ置キ陰型ヲ覆ヒ即金飯ヲ兩型間ニ間在セシメテ之ヲ轉倒シ陽型チ上方トナシ其基底ヲ打撃シテ壓印ヲ終ラバ稀鹽酸中ニ煮沸シテ清淨トナシ石膏摸型ニ適合シテ過剩線ヲ剪去或ハ鑄去シ周圍ノ邊緣ニ半圓形十六番ノ白金線ヲ純金ニテ織着シ陶質附添ノ限界トナス又砂型ヲ作ルニ先チ蠟ノ條片ヲ摸型ノ周圍ヲ繞ラシ床ノ外形線ニ會セシメ茲ニ摸型面ニ對シテ角度ヲ呈セシムレバ白金床壓印後床ノ周緣ニ屈曲シタル部ヲ生ジ半圓線ト同一ノ効アリ

三 陶齒排列 壓印適當ナリト認ムル白金床ヲ石膏摸型ニ置キ色澤形狀ノ適當ナル有根陶齒ヲ取り克ク刮リ合セ蠟ヲ以テ白金床上ニ解剖的ニ排列シ之ヲ口腔ニ試適シ咬合關係ヲ正シ口腔外ニ取り出シ再ビ摸型上ニ置キ蠟ヲ以テ後來陶質ヲ附添スベキ齒齶部及口蓋

部等モ天然的ニ形成シ終レバ陶齒及齒齶部摸型ノ外面ニ分離劑ヲ塗布シ石膏泥ニテ外壁ヲ造リ硬化後離去スレバ内面ニ於テ陶齒並ニ齒齶ノ形狀ヲ印シタル壁ヲ得ベシ茲ニ於テ蠟及陶齒ヲ去リ白金床ヲ酸液中ニ煮沸シ清淨トナシ再ビ石膏摸型ニ安置シ石膏壁モ之ノ如ク位置セシメ其内面ニ印記シタル形ニ倣ヒ陶齒ヲ排列ス

四 鐵着 排列ヲ終ラバ蠟ニテ再ビ假着シ壁ヲ除キ白金床ヲ摸型ヨリ取り去リ床ノ粘膜面ニ當ル部ニ石膏ト石絨等分ノ混合物ヲ泥狀トナシタル埋没材ヲ充シ別ニ硝子板上ニ此埋没材ヲ四分程積ミ上之ニ白金床ヲ置キ更ニ同一ノ埋没材ヲ以テ陶齒ノ舌面ノミヲ殘シ全部ヲ埋没シ硬化後蠟ヲ去リ次ニ二十九番ノ白金鍍ヲ取り前齒ヨリ第一小白齒迄他ハ第一小白齒ヨリ第二大白齒迄三部ニ裏裝シ兎ク乾燥シ純金ヲ以テ陶齒釘裏裝銀及白金ヲ織着シ冷却後埋没材ヲ破壞シ床ヲ取り出シ酸液中ニ於テ煮沸スベシ此際再ビ口内ニ試適シ其適否ヲ正スベシ

五 陶質塗敷 以上ノ如ク製作セラレタル義齒ニ陶質ヲ塗敷シテ約三回ニ窯燒ス第一回ハ陶質ヲ以テ陶齒ト床トノ間隙ヲ充シ且ツ之ヲ連絡シ併セテ諸部ノ概形ヲ作り尙ホ陶質ノ收縮ニ依テ陶齒ノ位置ヲ變ズルヲ防グ爲メ各陶齒ノ間チ「チセロ」ノ如キモノニテ裁割

分界シ「マップル」内ニ入レ爐内ニテ窯燒シ少時ノ後取り出シ裂隙及缺損等ヲ生ジタル部ニ再ビ陶質ヲ塗敷補缺シ第二窯燒チナシ次ニ口蓋及齒齶部ヲ天然ノ形狀ニ摸シ陶質ヲ塗敷シ(此際石膏ノ壁ヲ參考トスベシ)第三窯燒ニ付シ冷却「マップル」中ニ移シ漸次冷却スベシ而シテ陶質面ヲ克ク濕潤シ置キ齒齶珐瑯材ヲ「ゲーツ」二十六番位ノ厚徑ニ平均ニ最モ美麗ニ塗敷シ「マップル」内ニ入レ爐内ニ於テ窯燒シ漸次冷却セル後周縁チ「アーカンソー」石ヲ以テ研磨セバ茲ニ完成ス

第六十五問 「セルロイド」床製作法

先ヅ印象ヲ採得シ摸型ヲ作ル空室ヲ要スル時ハ摸型面上ニ石膏ヲ以テ築造ス次ニ「パラフィン」ヲ以テ假床ヲ造リ摸型ニ壓着シテ隆起皺襞等ヲ寫ス假床ノ厚徑ハ完成時所要ノ「セルロイド」床厚徑ヨリ稍厚カラシムベシ上顎ニ於テハ「パラフィン」板一葉ヲ以テ足レリトス本床用陶齒ヲ適合排列シ口内ニ試ミ齒齶部ヲ形成シテ隆起凹陷等ノ眞形ヲ摸シ後全面ニ六十番位ノ錫箔ヲ貼付ス口蓋部ニ用フルモノハ大サノ一致シタル一葉ヲ取り其周圍ニ狭キV字形間隙ヲ作り皺襞ノ生ズルヲ防グベシ

次ニ淺キ下盒中ニ摸型ヲ高ク支ヘテ埋没ス石膏泥ハ盒縁ヨリ假床下縁ニ至ラシム硬化後

分離劑トシテ石鹼液ヲ塗布シ深キ上盒ヲ重ネ石膏ヲ注入シ上蓋ヲ被フ  
硬化後少時之ヲ加温シテ上下兩盒ヲ離開シ沸湯ヲ注下シテ蠟ヲ溶除シ「セルロイド」過剩  
分ノ逃路ヲ作ル其法ハ或ハ蒸和護膜床ノ如クシ或ハ上盒ニ於テ假床緣ヨリ盒側緣ニ向テ  
石膏ヲ刮除ス

次ニ義齒ノ大小ニ應ジタル「セルロイド」原床ヲ上下盒間ニ注入シ加温ス其製作法ニ數種  
アリ大別シテ濕熱法乾熱法ノ二トス

一 濕空氣熱法 濕空氣熱裝置ヲ用ユ點火部加熱器壓搾器ノ三部ヨリナル上下盒間ニ原  
板ヲ挿ミ水中ニ没シテ水分ヲ帶バシメ壓搾器ノ蓋板ト底板ノ間ニ入レ「ナット」ヲ追進シ  
テ輕ク「フラスク」ヲ壓接シ加熱器中ニ容レ下部ヨリ加熱ス「セルロイド」軟化シ始メタル  
時ハ螺旋ニ依テ加壓シ次第ニ壓ヲ強クシテ「フラスク」ノ全ク閉合スルニ至ル此間時々器  
中ヨリ取出シテ各部ノ狀態ヲ檢查スベシ

二 乾熱法 「カンベル」氏新式加熱器ヲ用ユ本器ノ概形ハ圓筒狀ノ二室ヲ有ス一室ハ他  
室ヲ包擁ス外室ハ蒸氣室ニシテ内室ハ熱氣室ナリ兩室ハ前方ニ於テ其壁ヲ連合シ硝子屏  
ヲ有スル一孔ヲ開ク是ヨリ内景ヲ觀察ス又上部ニハ檢温器蒸氣弁及「フラスク」閉合用大

螺旋柱同小柱ヲ有ス其法ハ先ヅ「フラスク」内室ニ入レ加熱シテ石膏ヲ硬固ナラシメ乾  
燥後室外ニ去リ原床ヲ挿入シテ再ビ内室ニ入レ大螺旋ヲ追進シ「フラスク」ノ蓋板ニ壓底  
ス約五分時ニシテ「セルロイド」軟化スルガ故ニ螺旋ヲ進メ「フラスク」ヲ閉合スルニ至ル  
約三百度ノ熱ヲ加フル時ハ大概十分時ニシテ完成スルヲ得

然ル後「セルロイド」床ヲ石膏中ヨリ掘出シ錫箔ヲ剝離スル時ハ其表面美麗ナル色澤ヲ呈  
ス又過剩部ハ纖細ナル鏟或ハ砂紙ヲ以テ削除シ研磨完成ス

#### 第六十六問

「アルミニウム」床ノ口内ニ於テ破損シ且惡臭ヲ放  
ツ理由

「アルミニウム」床ハ多數ノ長所アルニモ拘ハラズ一大缺點ヲ有ス其口内ニ於テ化學的  
作用ニ侵サルコト是ナリ殊ニ不純ニシテ他金屬ヲ夾雜スルモノハ一層甚ダシク屢一點  
ニ害作用ヲ集中シ穿孔ヲ生ズルコトアリ此化學的作用ハ格魯兒鹽酸苛性「アルカリ」ニ  
由テ起ルモノナリ食物中ノ食鹽ハ口内ニ於テ格魯兒ヲ生ジ口腔液ノ亞爾加里性ハ常ニ作  
用シテ床面ヲ侵害ス

如斯口腔内ニ起ル化學的作用ニ抵抗シ能ハズシテ床面粗糙トナル時ハ其粗糙面ニ汚物ヲ

停留シ腐敗醱酵シテ惡臭ヲ放ツ

第六十七問 「セルロイド」床ノ成分及ビ其利害  
成分ハ(第五十六問參照)

其利益トスルハ

- 一 其色相ノ粘膜及齒齦ニ一致シ護膜床ヨリ一層自然的ナルコト
  - 二 彈力ニ富ムコト
  - 三 強靱ニシテ表面滑澤美麗ナルコト
  - 四 調製ノ容易ナルコト
  - 五 輕度ナルガ故ニ上顎總義齒ノ如キ最モ適ス
  - 六 惡臭ヲ與ヘザルコト
- 其害トスル處ヲ舉グレバ種々アレドモ之レ敢テ缺點トシテ舉グベキモノニ非ズ唯不注意ナル取扱ヨリ生ズルモノナルガ故ニ矯正セラレ得ルモノナリ
- 一 變形シ易キコト
  - 二 燃燒シ易キコト

- 三 調製ノ法正シカラザルトキハ口腔液ヲ吸收ス
  - 四 變色シ易シ
  - 五 浸蝕セラレ易シ
  - 六 異物ヲ沈着シ易シ
- 以上ノ缺點中變色及侵蝕ニアリテハ原床トシテ純粹ノモノヲ使用スルトキハ之ヲ矯正シ得ベシ

#### 第六十八問

齒根ニ繼續術ヲ應用スル其根ハ如何ナル狀態ヲ適當トナルカ並ニ其理由

- 繼續術ヲ施スベキ齒根ハ左ノ狀態タルヲ要ス少クトモ諸種ノ治療ニヨツテ左ノ狀態タラシメ得ルモノナラザルベカラズ
- 一 硬質ノ常態ナルコト 若シ齒根ノ破壞軟化甚ダシク補修ニヨツテ回復シ得ザル時或ハ齒根ノ吸收著シクシテ合釘ヲ挿入スベキ長徑ヲ有セザル時ハ繼續齒ヲ維持スルコトヲ得ズ又白堊質瘤等ノ存在スルトキハ早晚拔去セザルベカラズ
  - 二 根管ノ常態ナルコト 若シ根管畸形ニシテ充分清掃シ得ラレザルトキハ繼續後容易

ニ齒膜ノ疾病ヲ惹起スルモノナリ  
 三 齒膜ノ健全ナルコト 齒膜炎齒槽膿瘍漏等ノ疾病ナキコト若シアリトスルモ全治シ得ベキヲ要ス然ラザレバ其病勢ヲ増劇シテ齒根弛緩スルノミナラズ他部ニ障害ヲ及ボスニ至ラン

四 齒槽ノ健全ナルコト 腐骨齒槽突起ノ瘦削骨膜炎等ナキヲ要ス齒根如何ニ健全ナルモ此等ノ疾病存在セバ早晚脱落シ或ハ拔去セザルベカラザルニ至ルラン

#### 第六十九問 齒冠繼續術ヲ施スベキ齒牙ノ準備

齒冠繼續術ヲ施ス齒牙ノ前準備ハ破壊ノ状態及各繼續式ニヨリ差異アレドモ大別シテ金冠ヲ裝置スルモノト他ノ繼續齒ヲ裝置スルモノトノ二種トス

一 金冠ヲ裝置ノ齒冠ハ先根管ヲ清淨ニシ齒膜ノ疾病ヲ治愈セシムルヲ要ス形成ハ出來得ル丈ケ多ク齒質ヲ殘存スベシ時トシテ齒髓ヲ保存シテ形成スルコトアリ輪狀其他適宜ノ形狀ヲ有スル「コロンダム」(又切斷鉗子「チセル」鑪子等ヲ用ユ)チ「エンジン」ニ附シ齒冠周圍ヲ削リテ圓壻狀トナシ咬合面ヲ削リテ高徑ヲ減シ對合齒トノ間ニ金冠ノ咬面級ヲ裝置シ得ラル、丈ケノ間隙ヲ作ル又隣齒トノ密接セル時ハ分離用鋸子及「カーボラン

ダムデスグ」ヲ以テ齒間ヲ分離ス尙齒根ノ破壊甚ダシキ時ハ根管ニ合釘ヲ立テ「アマールガム」ヲ以テ破壊部ヲ形成ス

二 陶齒冠繼續齒ヲ裝スルニハ特別ノ場合ノ外一般ニ齒髓ヲ除去ス(一)齒冠切除 齒冠ノ大部分殘存スルモノハ「ドリール」ヲ以テ切斷セント欲スル部ニ數孔ヲ穿チ「バー」カ「カーボランダムデスグ」鋸子等ヲ以テ其孔ヲ連續シテ切斷ス或ハ上記ノ器械ヲ以テ齒質ノ半部マテ溝ヲ作り切斷鉗子ヲ以テ一時ニ離斷ス(二)齒根形成 「カーボランダム」或ハ「コロンダム」輪圓壻狀鑪子平滑子「カウスターサンクバー」等ヲ以テ齒根面ヲ平坦トナス唇面ヲ必ズ齒齦線下ニ至ラシムルヲ要ス尙各式ニヨリテ或ハ山形ニ形成シ或ハ溝ヲ作り或ハ中央ヲ凹陷セシムル等特種ノ形成ヲナス但シ金帽ヲ裝置スルモノハ齒根周圍ヲ平滑トナスヲ要ス(三)根管形成 「ドリール」「バー」「マリー」等ヲ以テ合釘ヲ挿入スルニ充分ナル丈ケ根管ノ約三分ノ二部ヲ開大シ次ニ小輪狀「バー」或ハ「グルービンクバー」ヲ以テ根管内壁ニ溝ヲ作ル又各式ニヨリ特種ノ「バー」ヲ用ヒテ特種ノ形成ヲ要スルコトアリ若シ根ノ破壊深ク齒齦以下ニ及ブ時ハ「アマールガム」ヲ以テ根管壁ヲ形成シ或ハ金製ノ細キ圓筒ヲ挿入シテ其周圍ニ「アマールガム」ヲ以テ補修充填ス「四」根管充填 根管ハ其尖端約

三分ノ一部ニ至ル迄金箔備答百兒加等ノ材品ヲ以テ充填スベシ

## 第七十問

齒冠繼續術ニ應用スル合釘ノ種類性質及形狀ヲ記セ

齒冠繼續術ニ用ユル各釘ハ其性質ニヨリテ分類スレバ三種アリ(一)金屬製合釘ハ金白金「イリシオプラチナム」其他合鑽ヨリナル時トシテ黃銅洋銀銅銀等モ用ユルコトアリ(二)木製合釘ハ「ヒッコリー」樹ヲ撰用ス(三)兩質混製合釘ハ「ヒッコリー」樹ノ中心ニ金又ハ白金釘ヲ貫通シタルモノナリ

其形狀ニヨリテ分類スレバ(一)圓形合釘ハ木製及混製ニ於テ見ル所ナリ金屬製ニ於テモ屢此形狀ヲ有スルモノアリ(二)方形合釘ハ最モ普通ニ用ヒラルルモノニシテリッチモンド式モ亦之ヲ用ユ(三)螺旋狀合釘ハ圓形ノ合釘ニ螺旋ヲ切りタルモノナリ「ナット」或ハ小頭ヲ添ヘテ用ユルコトアリハウ氏ハウランド氏フオスター氏等ノ式ハ之ヲ採用ス「メリヤムゲート」氏ハ螺旋ナレドモ稍ヤ異ル所アリ(四)三角形合釘ハバンム井ル氏式ニ用ヒタル(五)鎗狀合釘ハ扁平ニシテ兩縁ニ鋸齒ヲ有スウェストン氏ノ式ナリ(六)橢圓形合釘ハバンウエル氏ノ式ナリ(七)階段狀合釘ハロー氏ノ式ニシテ階段狀ナシ根面覆フベキ蓋狀ノ鍍ヲ付ス大小七種アリ(八)H字狀合釘ハ方形ノ兩側ニ溝ヲ有シ其橫斷面H字形ヲ

ナスモノナリローガン氏ノ式是ナリ

## 第七十一問

齒冠繼續時ニ用ユル合着材品ハ如何

繼續齒ノ合釘ト根管ノ間及金冠内面ニ填入シテ之ヲ齒牙ニ合着維持セシムル材品ハ左ノ如シ

- 一 「セメント」 最モ普通ニ使用セラルルモノニシテ磷酸「セメント」ヲ用ユ其用法ハ之ヲ稍ヤ緩ク煉和シテ根管及齒牙ノ孔溝ニ填入合釘ニ纏ヒ金冠内面ニ充シ齒冠ヲ壓抵シテ一定ノ位置ニ保持シツ、唾液ノ觸接ヲ避ケ熱空氣ヲ以テ乾燥ス硬化セシ後溢レ出シタル過剩ヲ除去ス此目的ニ専用セラルル「クラウンセメント」(磷酸)ナルモノアリ
- 二 備答百兒加 先ヅ根管及齒冠ノ溝ニ嚼臘仿膜ヲ塗布シ之ニ加熱シテ柔軟トナシタル備答百兒加ヲ充シ齒冠裝置器ヲ以テ齒冠ヲ狹ミ合釘ヲ加熱シテ適位ニ嵌入ス其際布片ヲ以テ齒齦及唇頰ヲ保護シ火傷等ノ過失ナキ様注意スベシ此合着ハ一時假的ノモノニシテ齒膜疾病ノ治癒確實ナラザル時ニ行ヒ裝着後齒根ニ異狀アレバ容易ニ除去シ得ベシ又屢々諸材品ト併用スルコトアリ
- 三 「アマルガム」 最モ堅牢ナル合着ヲ得ルモノニシテ殊ニバンウエル氏齒冠ニアリテ

ハ過剰水銀ノ爲メ合釘ハ「アマルガム」トナリ維持確實ナリ但シ齒冠ノ色澤ヲ黑變スルノ害アリ其用法ハ先ツ柔軟ニ煉リタルモノヲ根管ニ充シ稍硬ク煉リタルモノヲ齒冠ノ溝ニ充シ根管内ノ「アマルガム」ニ細キ線ヲ挿入シテ合釘ノ通路ヲ作り齒冠ヲ壓抵ス若シ齒冠ノ溝ヨリ外面ニ達スル孔ヲ有スル繼續齒ニ於テハ此部ヨリ充填器ヲ以テ凝實ス

四 金箔 時トシテハウ氏及ウエストン氏式ニ於テ用ユルコトアリ然レドモ「セメント」ト併用シ決シテ單獨ニ用ユルコトナシ先ツ根管内ハ「セメント」ヲ以テ齒冠ヲ確固ニ合着シタル後「セメント」ノ露出セル部ヲ削リ金充填ヲ施ス

#### 第七十二問 前齒用陶齒外裝金頸齒冠(リッチモンド齒冠)繼續式 ノ一ヲ示セ

一 齒根ノ形成 先ツ齒根周圍ヲ平滑トナシ根面ハ舌側部ヲ齒齦以上ニ少シク殘存シテ平坦トナシ唇面ハ斜ニ齒齦下ニ剔刮ス又舌面ヨリ唇面ニ向テ斜ニ剔刮スルモ可ナリ

二 金帽調製 齒根ノ周徑ヲ計リ之ニ應ジテ狭キ金銀(三十番位)ヲ以テ環ヲ作り之ヲ齒根ニ嵌入シ「コロランダム」ヲ以テ唇面ヲ齒齦緣下マテ剔刮シ金色ノ外觀ニ觸レザル様ニ其次ニ白金或ハ金銀ヲ根面ニ貼シ其面ニ應ジテ之ヲ風曲シ兩者ヲ口外ニ於テ鑲着シ一體ト

ナス次ニ根管ニ適合スル合釘ヲ作り金帽ヲ口内ニ裝置シ「ドリール」ヲ以テ其中央ニ孔ヲ穿チ之ヲ通ジテ合釘ヲ根管ニ挿入シ兩者ヲ口外ニ於テ鑲着ス又金帽ノ製作ハ齒根ノ印象ヲ採得シ之ヲ易鎔合金ニ顯ハシ金銀ヲ壓印シテ無縫金帽ヲ作ルモ可ナリ

三 陶齒冠裝置 色澤形狀適當ナル金床陶齒ヲ取り金帽ノ唇部ニ刮リ合セ金或ハ白金銀ヲ以テ裏裝シ鐵ヲ以テ金帽上ニ假着シ咬合排列關係ヲ正シ口腔外ニ取り出スベシ此作業ハ摸型及咬合ニヨリテ口外ニナスモノナリ

四 鑲着 蠟ヲ以テ假着シタル齒冠ハ石膏ト石紙或ハ大理石末トヲ等分ニ混合セル埋沒材中ニ埋沒シテ鐵ノ部分ノミヲ露出ス埋沒材ノ硬化セル後熱シテ蠟ヲ去リテ鑲着盆上ニ於テ金鐵ヲ流布シ金帽ト陶齒トヲ合着シ先ニ蠟ノ存在セシ部分ヲ充スベシ冷却シタル後埋沒材ヲ去リ過剰及粗糙部ヲ鑢磨シ舌面ハ天然的ニ形成シ研磨竣工ス

五 裝着 合釘ニ鑢目ヲ入レテ粗糙トナシ緩ク煉リタル「クラウンセメント」ヲ根管及金帽内面ニ充シ合釘ニ纏テ齒根ニ挿入壓着シ充分ニ乾燥ス

#### 第七十三問 ローガン齒冠繼續式

本齒冠ハローガン氏ノ創意ニナルモノニシテ特異ノ合釘ヲ有テ外觀天然齒ノ如ク底部ニ



於テ合釘ヲ繞ツテ「カウンターサンク」溝ヲ有ス合釘ハ前及小白齒ニハ一齒大白齒ニハ二齒アリ方形ニシテ尖端ヲ以テ終リ兩側面ニ縱溝アリ横断面ハH字狀ヲナス當時合釘ハ圓形ニシテ螺旋狀ヲナスモノアリ

裝置スベキ齒根ハ合釘ニ合スル樣根管ヲ開大シ根尖端ニ充填ヲ施シ尙ホ小形ノ「バー」ヲ以テ根管壁ニ二溝ヲ穿ツ根面ハ齒齦緣下ニ至ル迄刮磨シテ平坦トナシ次ニ色澤形狀適當ナル齒冠ヲ撰定シ根管ニ挿入試適ス合釘ハ「プラスチック」ヲ用ユレバ隨意ニ屈曲スルガ故ニ咬合ノ關係及根管ノ狀態ニヨリ便宜彎曲スベシ次ニ「コロンドム」輪ヲ以テ齒冠基底ヲ刮磨シ漸次齒根面トノ間隙ヲ減シ水密ニ接合セシム此作業ハ模型ニヨリテ行フモ可ナリ此際「コロンドム」ニヨツテ合釘ヲ磨耗スルノ恐レアルガ故ニ「ブライト」氏續製薄板ヲ輪側ニ添附シテ用ユベシ既ニ齒冠ノ形成ヲ終ラバ根管ヲ消毒乾燥シ「セメント」「ガッタパーチャ」或ハ「アマルガム」ヲ以テ合着小白齒ノ二根ヲ有スルモノニハ合釘ヲ縱斷シテ二トシ兩根管ニ挿入ス又上顎大白齒ニ於テハ二個ノ合釘ノ中一ヲ口蓋根ニ一ヲ頰後根ニ挿入ス

## 第七十四問

ローガン氏齒冠繼續法ヲ詳記シ他法トノ利害ヲ比較

セヨ

ローガン氏齒冠ノ長所トスル所ハ(一)齒冠全部陶材ヨリ成ルヲ以テ外觀全ク天然齒ト異ル事ナシ(二)既ニ繼續齒冠ノ完成品トシテ販賣セラル、ガ故ニ單ニ之ヲ齒根ニ合着スルノミニシテ他ノ手數ヲ要セズ(三)特異ノ合釘ハ維持力強固ニシテ合着後合釘ノ破折シ或ハ齒冠ノ離脱スルガ如キコトナシ

其缺點トシテ(一)齒冠基底ト齒根面トノ磨合セ困難ニシテ間隙ヲ生シ易シ(二)咬合ノ狀態ニヨリテハ時トシテ用ヒラレザルコトアリ(三)既成品ニシテ各部ヲ變造スルコト困難ナルガ故ニ常ニ多數ノ種類ヲ準備シ置カザル可カラズ

## 第七十五問

齒冠繼續術調製法ノ二三ヲ擧ゲヨ

## ○新リツチモンド氏式

齒冠ハ外觀上唇面舌面共ニ天然齒ニ類似シ方形ノ合釘ヲ有ス基底ハ中央斜面ニ凹陥シV字形ヲナス齒根面ハ扁平或ハ方形ノ鑪子及「コロンドム」輪ヲ以テ齒根中央ヨリ唇面及舌面ニ向テ斜面ニ形成ス根管ハオットレング氏「リマー」第二號ヲ以テ穿鑿スルヲ可トス次ニ形狀色澤適當ナル齒冠ヲ取り根ニ試適シツ、根面ヲ刮磨シ齒冠基底ト全ク水密ナル

接合ヲ得セシム此際炭素紙ノ一片ヲ基底ニ置キ之ヲ熱シテ合釘ヲ根管ニ挿入シ押壓スル時ハ兩斜面ノ不等部ヲ直ニ知ルヲ得ベシ

齒根ニ装着センニハ偏答百兒加ノ薄片ヲ取り合釘ヲ其中心ニ穿通シテ齒冠基底ニ達セシメ之ヲ熱シテ根管ニ挿入シヨク壓着シ冷却セル後口外ニ取り出シ基底以外ノ偏答百兒加剩余部ヲ銳利ナル小刀ニテ除去シ燐酸セメントヲ以テ合着ス其利益トスル所ハ内外兩面ヨリ來ル壓力及輪狀ノ回轉ニ抵抗スル力強キニアリ

○ハウ氏式

ハウ氏齒冠ニ二種アリ一ハ四個釘齒冠ト稱シ舌面ハ著シク凹陷シ茲ニ四個ノ桿狀釘ヲ有ス前齒ノミ専用ス一ハ鳩尾溝齒冠ト稱シ基底ニ鳩尾形ノ溝ヲ有シ白齒ニ用ヒラル合釘ハ共ニ螺旋狀ナリ今四個釘齒冠ニ就テ述ベシ

齒根面ヲ刮磨シテ平滑トナシ唇面ヲ齒線縁下迄切り下ゲ根管ハ「バー」ヲ以テ開鑿擴大シ更ニ螺旋狀「トップ」ヲ保持器ニ附シテ根管内ニ旋入シ隣齒トノ排列及對合齒トノ咬合關係ヲ見テ或ハ合釘ヲ彎曲シ或ハ短縮ス

陶齒冠ヲ取り之ヲ根面ニ試適シテ適當ニ刮リ合セ之ヲ「マンドレール」ニ保持シハウ氏齒

子ヲ以テ桿狀釘ヲ屈曲シ「マンドレール」ヲ除ケバ釘ハ蹄係狀ヲナス之ヲ齒根ノ唇面ニ貼シ排列咬合等ヲ察シテ釘ヲ屈曲シ合釘ニ纏絡シ金「セメント」「アマalgam」或ハウット氏「メタル」等ヲ以テ根管及舌面ヲ充填形成ス本式ノ利トスル所ハ合釘ノ屈曲自在ニシテ齒冠ヲシテ隨意ノ角度ヲ有セシムルヲ得ルニアリ

第七十六問 齒冠繼續術用咬合器ノ用法如何

繼續齒冠ヲ調製スルノ際屢患者ノ口腔ニ試適スルノ不便ヲ避クル爲メ豫メ模型ニヨツテ作業スル時ハハント氏ノ咬合器ヲ用ユ齒根ノ形成ヲ終リシ後根管ニ金屬或ハ木製ノ軸ヲ挿入シテ之ガ印象ヲ採取シ又對合齒牙ノ印象ヲ採リ次ニ其部ニ軟化セル蠟塊ヲ置キ上下顎ヲ閉合セシメテ咬合關係ヲ寫シ上下ノ模型ヲ相符合スル蠟塊ノ印記面ニ置キ咬合器ヲ閉合シタル間ニ挟ミ石膏ヲ以テ模型ヲ各別ニ咬合器ノ上下板ニ附着シ蠟塊ヲ除ケバ繼續スベキ齒牙ノ咬合關係ヲ明知スルヲ得ベシ

第七十七問 金冠製作法

金冠ノ製作法ハ種々アリテ一々列擧ニ暇アラズ今其一ヲ記サン

一 齒冠ノ形成 金冠ヲ施サンニハ可及的多クノ齒質ヲ殘存スルヲ可トス周圍ハ眞直ニ

刮磨シテ圓筒狀トナシ結節ヲ剔刮シテ高徑ヲ減ズ齒髓ノ尙ホ生活セルモノハ損傷セザル  
 様注意スベシ齒冠ノ破壞甚ダシキ時ハ白金或ハ銀線ヲU字形或ハT字形トナシ根管ニ嵌  
 入シ「アマルガム」ヲ以テ形成スベシ

二 鑲ノ製作 細キ鐵線ヲ「テンチメーター」ニ付シ齒冠ノ周徑ヲ計リ之ニ應ジテ三十番  
 位ノ金銀(二十加鍊)ヲ切り鑲狀ニ彎曲シテ兩切縁ヲ合シ鐵着シテ鑲トナス鐵着部ヲ遠心  
 側或ハ舌面側ニ向ケタル位置ニ於テ兩隣接部ニ相當スル下縁ヲ弧線狀ニ缺除シ口腔或ハ  
 摸型ニ試適シテ形ヲ整理シ高徑ヲ適當ナラシム

三 咬面鍍ノ製作 鑲ノ一端ニ「パラピン」ヲ盛り之ヲ口内ニ試適シテ上下顎ヲ閉合セシ  
 メ之ヲ口腔外ニ取り出シ「パラピン」面上ニ印記セラレタル對合齒ノ痕跡ニヨリ之ヲ彫刻  
 シテ解剖的形態トナシ「モルデン」中ニ壓入シテ之ヲ砂型トシ易鎔合鑲ヲ流入シテ陰陽兩  
 型ヲ作り兩型間ニ金銀ヲ挾ミ打壓シテ咬面鍍トス又「ボーリソングスウォース」氏ノ咬面型或  
 ハ陰型盤ヲ用ユルモ可ナリ

四 鐵着及裝着 今咬面鍍ヲ鑲上ニ適合セシメ鐵細線ヲ以テ結紮シ接合部ニ硼砂溶液ヲ  
 塗布シ少量ノ鐵片ヲ置キテ火焰上ニ醫シ兩者ヲ鐵着ス後過剩部ヲ切除或ハ鑄磨シ去リ研

磨竣工ス之ガ合着ニハ緩ク煉化シタル「セメント」ヲ金冠内面ニ充シ齒牙ニモ塗布シ強ク  
 壓入シ其下縁ヲ齒齦下ニ至ラシム

第七十八問 無鐵金冠調製法

無鐵金冠(又無縫金冠)トハ一金銀ヲ以テ金冠ノ全形ヲ造ルモノナリ即チ鑲成金冠ノ鑲ト  
 咬面板トヲ蠟着シテ作ルニ反シ全ク鐵ヲ用ヒズシテ調製スルモノヲ云フ是ニハ數法アレ  
 ドモ茲ニ其一二記ス他ハ推シテ知ルベシ

一 齒根ヲ適宜ニ形成シタル後其齒頸ニ鐵線ヲ繞グシテ齒冠ノ形ヲ蠟其他ノ煉性材品ニ  
 テ形成シタル後石膏印象ヲ採得シ鐵又ハ銅ノ線ヲ共ニ移シ來リ之ヨリ石膏摸型ヲ製ス此  
 際線ヲ切り去ル時ハヨク齒頸ノ形ヲ現ハスガ故ニ尙ホ深ク齒根ノ形ヲ彫刻シ隣接齒ヲ削  
 リ全齒形ヲ「モールデン」ニ印象シ易鎔合金ノ摸型ヲ作り屢金銀ヲ燒還シツ、壓印ス若シ  
 摸型二種ヲ作り一ハ齒頸ノ方ヲ却テ廣カラシメ即富士山形ヲ呈スル陽型ヲ作りテ概形ヲ  
 與ヘ次ニ一齒冠ノ全形アルモノニテ壓印スル時ハ甚ダ佳ナリ

二 近時(千九百〇一年)「シャープ」氏ノ創案セル調製具ハ從來ノ方法ヲ用フルニ比シテ頗  
 ル鮮美ナル金冠ヲ得ルニ適ス此裝置ハ二具ヲ以テ成ル一ハ圓形桿ト之ニ適スル凹窩ヲ有

スル「プレス」ニシテ以テ金銀ナ固塊状ナラシム大小數種アルガ故ニ患齒ノ大小ニ應ジテ撰用スルヲ得ベク斯テ成レル金帽ハ之ニ齒冠外形ヲ與ヘザルベカラズ之ガ爲メニ七十種ノ可撓性護謨齒型アリ齒頸ノ直徑并ニ齒冠ノ形狀適切ナルヲ取テ護謨輪中ニ置キ易鎔合金ヲ注ギテ陰型ヲ作り護謨齒型ヲ除去シ其中ニ金帽ヲ置キ附屬セル木桿及護謨片ヲ金帽中ニ強ク壓入シ以テ形能ヲ與フ金冠ノ能ク陰型内面ニ壓着セラル、ヤ陰型ヲ鎔融シ去レバ茲ニ金冠成ル此裝置ニ依テ作ラレタル金冠ハ外形ノ美ナルト金板ノ薄クナラザルト(壓印ニ依テ)皺裂ノ生ゼザルト齒頸ニ於ケル狹窄完全ニ現ハル、トヲ以テ優レリトス

第七十九問 有床義齒ト架工義齒トノ利害如何

有床義齒ト架工義齒トハ各特長ヲ有シ其利害ヲ判別スルコト容易ナラズト雖モ架工義齒ハ最モ進歩シタル方式ニシテ義齒トシテ必要ナル條件ヲ具備スルコト多キガ故ニ有床義齒ヨリモ利益アルモノトス

架工義齒

一 利益

1 有床義齒ヨリモ破壊ヲ來スコト少ナ

一 弊害

1 架工義齒ニ比シテ破損シ易ク永久ノ

ク永時ノ使用ニ堪ユ

2 有床義齒ノ如ク口腔粘膜ヲ被フコトナキガ故ニ不快ノ感ナク又舌ノ運動自在ナルヲ以テ發音及味覺ヲ障害スルコトナシ

3 有床義齒ノ如ク齒槽ヲ壓迫スルコトナキガ故ニ齒槽ノ吸收ヲ促シ粘膜ノ疾病ヲ起ス等ノコトナシ

4 齒根ヲ保存シテ友持ニ用ユ又破損セル齒牙ヲ保護ス

二 弊害

1 口腔ニ齒牙ヲ有セザル總義齒ニ於テハ支臺トスベキモノナキガ故ニ架工

使用ニ堪エズ

2 床ヲ以テ口腔粘膜ヲ被覆スルガ爲メ不快ノ感アリ又舌ノ運動自由ナラズ言語及味覺ノ異狀ヲ來ス

3 床ニヨツテ粘膜ヲ壓スルガタメ齒槽ヲ吸收セシメ粘膜ノ炎症ヲ起スコトアリ

4 多クノ場合齒根ヲ拔去セザルベカラズ又「クラスプ」等ニヨツテ隣齒ヲ害スルコトアリ

二 利益

1 口腔内ニ一齒ダモ殘存セザル時總義齒ヲ施スコトヲ得

- 2 義齒ヲ施スヲ得ズ
- 3 殘齒ヲ支臺トスル爲メ健全ナル齒牙ヲ削刮シ或ハ冠部ヲ切斷スルコトアリ
- 4 其製作困難ナリ

- 3 固定架工義齒ハ清掃困難ニシテ食片等停滯シ易シ

第八十問 固定架工術ト可撤架工術トノ利害ヲ擧ゲヨ

- 一 固定架工術
- 1 患者ノ隨意ニ取り除クコトヲ得ズ
- 2 充分ナル清掃ヲ施スコトヲ得ズ
- 3 撤去スル際ニハ少クトモ支臺ヲ破壊セザルベカラズ

- 2 殘存齒ヲ破壊スル必要ナシ

- 3 其製作簡易ナリ
- 4 患者自身之ヲ口外ニ取り出シ清掃スルコトヲ得

可撤架工術

- 一 利益
- 1 必要ニ應ジテ取除クコトヲ得
- 2 隨時完全ナル清掃ヲ施スコトヲ得
- 3 修繕等ノ場合ニ於テ天然齒及架工義齒ヲ損セズシテ撤去スルコトヲ得

- 5 一顎少クトモ三齒以上殘存スルニ非ラザレバ本義齒ヲ施スヲ得ズ
- 支臺ニ過度ノ壓力ノ加ハル爲メ屢々之ヲ發病セシムルコトアリ

二 利害

- 1 堅確ニ固定セラレテ些ノ動搖ナシ
- 2 口外ニ取り出スノ煩ナシ
- 3 殆ンド床ヲ用井ザルガ故ニ舌ノ觸覺ヲ害スルコトナシ

第八十一問 可撤架工術ハ如何ナル場合ニ施スベキヤ及其調製法

ヲ詳記セヨ

可撤架工術ハ顎ニ於テ適當ナル位置ニ二個以上ノ齒根殘存スレバ行フコトヲ得ベシ然レ

- 4 一顎二齒以上ノ殘存齒アレバ本義齒ヲ施コスヲ得
- 5 狹床ヲ有スルモノハ維持チ天然齒ノミニ依頼セズ故ニ殘存齒ヲ害スルコト少ナシ

二 弊害

- 1 固定セラル、堅確ナラズ
- 2 時ニ口外ニ出シテ清掃セザルベカラズ
- 3 狹床ヲ有スルモノハ稍ヤ舌ノ觸覺ニ不快ヲ感ズ

ドモ二三齒ノ缺損ヲ補綴スルモノハ屢々撤去スルコト繁雜ナルガ故ニ固定架工術ヲ可ナ  
リトスサレバ適應症ハ多數齒牙ノ缺損ヲ補綴スルニアリ又齒牙缺損部兩隣ノ齒牙傾斜シ  
テ有床義齒ノ適用シ難キ際之ヲ用ヒ利益アルコトアリ可撤架工齒ノ調製法ニハ種々ノ式  
アリ一々述ブルヲ得ズト雖モ今一例ヲ以テ之ヲ説明セン上顎ニ於テ左右兩犬齒根及右側  
第二大臼齒殘存シ其他ノ齒牙ヲ凡テ亡失セルモノニ於テハ

一 支臺 左右ノ犬齒ハ舌側部ヲ稍ヤ殘存シテ唇側ヲ齒齦緣下ニ至ル迄削去シ根ノ周圍  
ヲ平滑トナシ根管ハ「ゲーシ」十三番位ニ擴大スベシ次ニ其齒根ニ三十番位ノ金銀ヲ以テ  
金帽ヲ作り又白金銀(三十二番)ヲ以テ根管ニ當合スル細キ圓筒ヲ作り其一方ハ同一ノ銀  
ヲ鐵着シテ閉塞ス金帽ヲ齒根ニ裝置シテ其中央ニ孔ヲ穿テ根管ノ入口ト一致セシメ孔ヲ  
通シテ根管内ニ圓筒ヲ挿入シ兩者ノ位置ヲ變ゼザル様靜ニ口外ニ出シ接合部ニ於テ鐵着  
ス後金帽面上ニ挺出セル圓筒ハ切除ス之ヲ齒根上ニ假ニ裝置シ其上ヲ被フベキ一ノ金帽  
ヲ作り其唇側ヲ切除シ隣接側及舌側ヲ殘スベシ同時ニ圓筒ニ適合スル白金加金ノ合釘ヲ  
作り後ノ金帽ノ中央ニ鐵着シ合釘ノ尖端ヲ中央ニ於テ縱裂シテ稍ヤ壓開ス是レ犬齒ニ於  
ケル支臺ナリ右側第二大臼齒ハ之ヲ圓筒形ニ削リ高徑ヲ低メ二重ノ金冠ヲ作り内金冠ハ

敢テ咬合面ヲ形成スルニ及バズ平坦ニシテ可ナリ兩金冠ハ密ニ適合スルモノタルヲ要ス  
左側ニ於テハ齒牙ナキガ故ニ第一及第二大臼齒ノ部位ヲ印象シ其齒齦上ニ橢圓形ノ小金  
銀(二十八番)ヲ壓印シ之ヲ支臺トス

二 架工齒 前齒ニ對シテハ金床陶齒ヲ用ヒ臼齒ニ對シテハ外裝陶齒ヲ用ユ前齒ハ摸形  
ニツキ適當ニ削リ合セタル後白金銀ヲ裏裝シ臼齒ハ先ヅ純金銀ヲ以テ咬合面ヲ壓印シ其  
内部ニ高鎔ノ金鐵ヲ鎔流シ外裝陶齒ノ上緣ト適當ナル位置ニ磨リ合セ蠟ヲ以テ假着シ陶  
齒ニ裏裝銀ヲ施シタル後兩者ヲ鐵着ス

三 合着 支臺ヲ口腔ノ定位ニ嵌入シ置キ全顎ヲ印象シテ摸型ヲ作ル此際内金冠及金帽  
ハ口腔ニ殘存シ外金冠金帽及狹床型ノミ摸型面ニ存在スル様ニスベシ此摸型上ニ架工齒  
ヲ配列シ硬蠟ヲ以テ假着シ一度口腔ニ試適合ヲ行ヒ排列及咬合關係完全ナレバ石膏ト石  
絨トノ等分ノ混合材中ニ埋没シ全體ヲ鐵着スレバ外金冠外金帽狹床架工齒ハ一體トナ  
ル冷却後埋没ヨリ出シ過剩ノ鐵ヲ鐵磨シ全體ヲ研磨完成ス之ヲ口腔ニ裝置スルニハ内金  
冠及内金帽ヲ「セメント」ニテ齒根ニ合着シ其上ヨリ架工義齒ヲ嵌入ス患者ハ隨意ニ義齒  
ヲ除去スルヲ得ベシ

## 第八十二問 披裂口蓋補綴法

口蓋披裂ヲ整復スルニハ外科的縫合法ト技術的方法トアリ前者ハ結果良好ナレドモ披裂ノ大ナルモノニハ應用シ難シ茲ニ於テカ後者ヲ用ユルノ必要ヲ生ズ之ニ又二アリ栓塞子トハ名ノ如ク單ニ開口部ヲ閉塞スルニ止リ後者ハ軟口蓋ヲ補綴シ之ト一致シテ運動ヲ營マシムルノ用ニ供ス何レヲ取ルモ鼻腔トノ間ニ完全ノ境界ヲ作ルコト及發音ヲ自由ナラシメンコトヲ計ルベシ但シ此發音ノ整調ハ後天的披裂ノ患者ニ於テハ直ニ起レドモ先天的發音不全ヨリ來ル披裂ニ於テハ更ニ發音ノ訓練ヲ經ザルベカラズ

一 調製ノ第一着手ハ印象採得ニアリ材品トシテ「モデリン」ガ、コンボツション」及石膏ノ何レカナ用ユ後者ハ破片ヲ殘遺ス(殊ニ口腔内)ルコト多キガ故ニ叮嚀ニ長キ鑄子ニテ拾收スルヲ要ス印象時ノ嘔吐ト石膏泥ノ咽喉内墜落トハ特ニ豫防ヲ要スル處ナリ印象蓋トシテハ普通ノモノハ後縁ニ偏答百兒加又ハ錫板ヲ延長セシメテ用ユ次テ是ヨリ石膏摸型ヲ製ス

二 栓塞子ハ硬護膜ヲ以テ製シ若シ硬口蓋ノミノ穿孔ハ通常ノ床ト同一ニシテ異ナルコトナク鈎ヲ以テ天然齒ニ維持セシム軟口蓋ニ至レルモノハ披裂孔ヲ全ク閉塞シ且ツ軟口

蓋ト同一ノ厚徑ヲ有スル中空栓子ヲ連合スベシ斯ク中空トナスハ栓子ノ重量ヲ減ゼンガタメニシテ蠟製假栓子ヲ常法ノ如ク「フラスク」中ニ埋没シ更ニ之ヲ離開シテ護膜ヲ充填スルニ當リ二葉ヲ取テ兩「フラスク」ノ石膏面ニ壓抵シ其中ニ少量ノ水ヲ滲シ「フラスク」閉合後蒸和スルコト常ノ如シ中空栓子成ル此栓塞子ト義齒床トノ連合ハ鈎釘ヲ以テシテ佳ナリ螺旋釘ニシテ用ニ應ジ別離シ得ルモノハ一層佳ナリ蝶番關節ヲ用ヒテ栓塞子ノ軟口蓋ト共ニ移動セシムコトヲ計畫スルコトアレドモ奏効ヲ必スヘカラズ薄キ白金板ヲ以テ連合シテ其彈力ヲ利用スルカ或ハ栓塞子ヲ軟護膜ニテ作ルヲ勝レリトス此場合ニハ印象時ニ當リ軟口蓋緊張ノ狀態ヲ寫サンコトヲ要ス

三 人工口蓋ハ上下二板ヨリナリ披裂孔縁ヲ狹マシム共ニ三角形ヲナシ尖端ハ口腔ニ向ハシム此兩板ハ元ヨリ披裂孔ヲ通ジテ相連合スルモノナリ是ニ依テ人工口蓋ハ軟口蓋ト共ニ自由ニ上下ス可シ而シテ此調製時ニハ其石膏摸型ヲ極メテ平滑ニ作り「フラスク」内埋没石膏ノ軟護膜ニ接スル面ハ叮嚀ニ錫箔ヲ布クヲ要ス易鎔合金ヲ以テ摸型ヲ製スル時ハ極メテ佳ナリ此ノ如キ必要アルハ蒸和後ト雖モ軟護膜ハ研磨スルニ困難ナルニ由ルナリ人工口蓋ト床トノ連合ハ鈎釘ヲ以テス

第八十三問 狼咽ノ補綴術ヲ詳記シ且外科的手術トノ優劣ヲ擧ゲヨ  
 狼咽ヲ修復スルニハ外科的縫合法ト技術的補綴法トノ二種アリ各々特長ヲ有ス前者ハ手術ニシテ成功センカ殆ンド完全ナル成績ヲ得テ常人ト同一ノ状態トナルモ披裂ノ程度甚シキモノハ其創縁ヲ癒合セシムルコトヲ得ズ故ニ外科的手術ハ披裂間ノ間隙狹キモノニ於テ稱用スベキ方法ナリ又幼年者ニ於テハ技術的補綴裝置ヲ口腔ニ留置スルコト困難ナルガ故ニ是非トモ外科的手術ヲ撰バザルベカラズ

第八十四問 固定架工術ニ於ケル二三ノ調製法

一 四個ノ中切齒缺損シ兩犬齒健全ナルモノニ於テハ兩犬齒ニ閉面金冠ヲ裝置シ之ヲ支臺トシテ四個ノ架工齒ヲ維持セシム先兩犬齒ノ隣接面ヲ少シク削リテ互ニ平行トナシ其周徑ヲ測リ之ニ依テ三十番二十二加煉金銀ヲ切取リテ鑲トナシ鑲ヲ齒牙ニ適合シテ其唇面部ヲ切除シ舌面及隣接部ハ密ニ齒牙ニ壓着ス若シ適合困難ナル時ハ一二ノ縱切ヲ施シ全ク適合シタル後其部ヲ鑲着ス開面金冠成ラバ之ヲ齒牙ニ嵌入シタルマ、印象及咬合ヲ採得シ金冠ヲ模型ニ移行行カシム架工齒トシテハ色澤形狀適當ナル金床用陶齒ヲ撰ミ白金或ハ鑲裝ヲ施シ模型ノ缺損部ニ排列シ埋没シテ蠟ヲ流布シ相互ヲ結合ス

二 二個ノ小白齒缺損シ兩隣ニ於テ犬齒根殘存シ第一大白齒存スル時ハ犬齒ニ「リツチモンド」式繼續齒ヲ大白齒ニ金冠ヲ施シテ維持セシム先犬齒ノ根管ヲ擴大シ齒根面ヲ斜ニ削リ尙側面ヲ削リ大白齒側面ヲ削リテ圓筒狀トナシ次ニ犬齒ニ金帽ヲ製シ合釘ヲ鑲着シ大白齒ニハ通法ニ依リ金冠ヲ作り金帽及金冠ヲ齒牙ニ嵌入シタル儘印象及咬合ヲ採得シ模型上ニ於テ犬齒ニハ金床陶齒ニ鑲裝シテ適合シ缺損小白齒ニハ外裝陶齒ニ咬合面ヲ附シ之ヲ架工齒トシテ模型上ニ排列シ蠟ヲ以テ假着シ埋没シテ蠟ヲ流布シ相互ヲ結合ス

第八十五問 「アルミニウム」床ノ製法及其理害如何

「アルミニウム」壓印床ハ金床ト殆ンド同一ナル方法ヲ以テ製作スルヲ得ベシ則先石膏模型ヲ以テ砂型ヲ作り之ヨリ亞鉛ノ陽型ト鉛ノ陰型トヲ作ル總義齒ノ場合ニハ豫メ石膏模型上ニ「パラフィン」ヲ以テ室空ノ形狀ヲ作り又床縁ニ該當スル部ニ「パラフィン」條片ヲ繞ラシ以テ床縁ニ屈曲部ヲ造リ蒸和護謨ノ維持ニ便ス而シテ兩型間ニ「アルミニウム」板ヲ介在シ屢々燒還シツ、槌打シテ壓印シ紙ノ過剩部ヲ切除スレバ床成ル此床ノ齒槽部ニ「パンチ」ヲ以テ穿孔及突起ヲ作り或ハ「チセル」ヲ以テ棘ヲ作り蒸和護謨ノ維持トナシ正



位ニ陶齒ヲ排列シ蠟ヲ以テ床ニ假着シ「プラスチック」中ニ埋没シ蒸和護謨ヲ填入シテ蒸和スレバ陶齒ハ床ニ附着スルガ故ニ研磨竣工ス  
 或ハ始メ護謨床義齒製作ニ於ケルガ如ク石膏模型上ニ蠟ヲ以テ假床ヲ作り其上ニ陶齒ヲ排列シ且蠟ヲ以テ各部ノ形ヲ形成シ之ヲ壓迫鑄造器中ニ埋没シ蠟ヲ燃燒シタル後壓縮空氣或ハ水蒸氣ヲ以テ鑄融セル「アルミニウム」ヲ壓入スレバ簡易且迅速ニ鑄造スルヲ得可シ

「アルミニウム」床ハ幾多ノ長所ヲ有ス一輕量ナルガ故ニ上顎義齒ニ適スルコト2 硬固ニシテ弾力性ヲ有スルコト3 酸ニ抵抗スル力強ク口腔内ニ於テ比較的變化ヲ受ケサルコト4 壓印操作ニ容易ナルコト5 廉價ナルコト等ナリ

第八十六問 金銀銅ノ合金ヨリ各種ヲ分離スル方法如何

四分一法ニ依レバ此合金ニ銀ヲ追加シテ約銀三金一ノ比例ニ至ラシメ鑄融混和シ後細粒トナシ硝子器中ニ於テ約二倍半ノ硫酸ヲ注加シ加熱スレバ銀ハ硫酸銀トシテ銅ハ破酸銅トシテ溶解スルモ金ハ溶解スルコトナク器底ニ沈澱スルガ故ニ溶液ヲ傾瀉シ金ヲ洗淨集合シテ鑄融ス溶液中ニ一片ノ銅ヲ投ズレバ銀ハ結晶トシテ回復セラル、ガ故ニ之ヲ集メ

テ鑄融ス又最後ノ溶液ニ鐵片ヲ投ズレバ銅ハ結晶トシテ沈澱シ來ル其沈澱ヲ集合鑄融ス

第八十七問 義齒ニ用フル金鈎ニ硬固性及彈力性ヲ與フルニハ如何ナル金屬ヲ配合スルヤ特ニ其配合ノ比例ヲ記セ

鈍金ハ金鈎トシテ柔軟ニ過ルガ故ニ銅銀白金等ヲ加ヘ十八乃至二十加練トシテ之ヲ使用ス白金ヲ加ヘタルモノハ比較的高加練ニ於テ用フ可シ

- 鈍金 二〇 銅 二 銀 一 白金 一
- 鈍金 十八 銅 四 銀 二

第八十八問 石膏模型ヲ硬固ニスル法

石膏ニ對シテ大理石末等量ヲ加ヘタルモノハ硬度ヲ増スベク又明礬溶液ヲ以テ煉和シタルモノハ硬固ナリ又摸型ヲ明礬水中ニ於テ煮沸スル時ハ表層著シク硬度ヲ増シ滑澤トナル可シ

第八十九問 印象蓋所要ノ狀件如何【新】

- 一 印象採得部ノ外形ニ一致スルコト
- 二 粘膜其他ノ軟部ニ接觸ス可キ部面滑澤ナルコト
- 三 印象材軟化ニ要スル溫度ニ於テ變形セザルコト
- 四 變形容易ナルコト
- 五 外觀美麗ナ

ルコト 六消毒ニ簡易ナルコト 七印象材ト固着分離等自由ナルコト

第九十問 蒸和護膜ノ硬化スル理由ヲ記セ 【新】

元來床用護膜ノ集成ヲ見ルニ「コーチツク」ヲ最トシ朱硫黃之ニ次ケ而シテ其最多含量ナル「コーチツク」ハ其純粹ヤルモノハ殆ンド全部(ポリブレン)  $C_{10}H_{18}S_2$ ト稱スル炭化水素ヨリナル此ポリブレンガ硫黃ト化合シ硫化「ポリブレン」ヲ生ズルニ依テ硬化ス而シテ此「ポリブレン」ハ熱ノ作用ノ異ルニ從テ又異ル即チ熱度低キ時ハ下級硫化「ポリブレン」 $(C_{10}H_{16}S)$ トナリ熱度高キカ又比較的低温ナルモ其作用(蒸和時間)長ケレバ高級「ポリブレン」 $(C_{10}H_{14}S_2)$ トナル三百二十度ニテ三十分二百七十度ニテ六時間ヲ蒸和セバ高級トナル

第九十一問 壓迫鑄造用埋没材所要ノ性質及一二ノ材品ヲ舉ゲヨ 【新】

一強熱ニ對シ破碎若クハ溶解等何等變化ナキコト 二膨張收縮ノ性ナキコト 三適當ナル硬度ト粘着性ヲ有スルコト即チ壓入セラレタル鑄金ニ抵抗シテ變形セザルモノ 四鑄金ニ遇フモ何等ノ化學的變化ヲ起サザルコト 五常ニ空型中ニ存在スル瓦斯ヲ吸收シ得可キ氣孔ヲ有スルコト但排氣裝置アルモノハ比較的緻密ナルモ防ナシ

材品ハ單獨ニテハ理想的ノモノナシト雖トモ其主分ハ硅石ナリ、處方硅石三石膏一黑鉛一ハ小ナル鑄造ニ適ス

第九十二問 義齒ノ種類ヲ舉ゲヨ 【新】

義齒ニ二種アリ有床義齒及無床義齒之ナリ

第一有床義齒ハ其床用品ノ相違ニ依リ更ニ三種アリ

(一)植物性材料ヲ以テ床トナス義齒

例、蒸和護膜床義齒セルロイド床義齒ノ如シ

(二)金屬性材料ヲ以テ床トナス義齒 之レハ又床ノ製作法ノ相違ニヨリ二類アリ壓印床及鑄造床義齒之ナリ

例、白金床義齒金床義齒銀床義齒「アルミニウム」床義齒易鎔合金床義齒ノ如シ

(三)連合性材料ヲ以テ床トナス義齒

例、金屬ト蒸和護膜ノ連合ヨリナルモノ、如シ

有床義齒ハ又床用品ノ堪久性ノ相違ニヨリ次ノ三種トナス

(1)永久性義齒 護膜「セルロイド」及金、白金「コンチニユアスガム」義齒ノ如シ總テ長

期口内ニ裝置スルモ大ナル變化ナキモノ

(2) 半永久性義齒 銀易鎔合金「アルミニウム」床義齒ノ如シ總テ長期口内ニ裝置スルニ依リテ理化學的變化ヲ起スモノ

(3) 一時性義齒 通例護謨ヲ以テ製ス總テ近キ將來ニ於テ再製ヲ要スルモノナリ

#### 第二無床義齒ニ二種アリ

(1) 繼續義齒 天然齒ノ齒根ヲ應用シ之ニ欠損セル齒冠ヲ人工的ニ調製裝着スルモノ

(2) 架工義齒 天然齒ノ缺如セル際之ガ補償トシテ殘存齒冠或ハ齒根ノ維持ニ依テ口腔

ニ裝置スル一聯ノ人工齒冠ヲ云フ其裝置可撤的ナルモノト固定のナルモノトアリ之ニ依テ前者ヲ可撤架工義齒後者ヲ固定架工義齒ト云フ

尙義齒ハ補綴患部ノ大サニヨリ全部義齒局部義齒ノ二トナス可シ

#### 第九十三問 蒸和罐使用ニ對スル注意事項ヲ記セ【新】

蒸和罐ノ使用法ヲ研究スルニ方テハ豫メ蒸和罐ノ造構ヲ知悉セザル可ラズ抑モ本器關ハ罐體即チ瀉罐ト罐蓋トヨリナリ前者ハ「フラスク」ヲ入レ後者ニハ檢温器安全瓣並ニ放瀉管ヲ附屬セリ而シテ罐蓋ト瀉罐トハ蒸氣逸散ヲ坊止スベク溝渠ニヨツテ接合セラレ更ニ

一層其接合ヲ緊密ナラシメンガ爲メニ輪狀護謨ヲ以テ補填セララル又安全瓣ハ薄キ銅致ニテ製リ瀉罐ノ危險ヲ來ス可キ高熱ニ至レバ罐内蒸氣ノ壓力ニヨリテ破裂ス可キ裝置トナセリ此等ノ造構ニ鑿ムルトキハ左ノ注意ヲ施スヲ要ス

一 罐内ニ大氣ヲ存セザルコト 若シ之ヲ存スルトキハ檢温器ニ表示セララル熱度ハ罐内ノ熱度ト相一致セズ加モ時々反復セバ終ニ檢温器ノ調節異常ヲ來ス

二 罐蓋ニ嵌入セル護謨輪完全ナルコト 若シ之ガ破損ヲ放擲シテ蒸和センカ罐内ノ水分蒸氣トナリテ隙間ヨリ逸散シ全ク消盡スルニ至レバ罐體ノ爆破ヲ來ス

三 罐内水量ハ罐蓋底面ト其水面ノ間約一寸位ヲ存スルコト 水量過多ハ著シキ膨脹ノ結果水量過少ハ水中ニ熱ヲ吸收スルコト多ナル結果何レモ瀉罐ノ爆發ヲ來ス

四 罐蓋ト瀉罐トノ接合部ニハ必ず分離劑ヲ塗布スルコト 這ハ蒸和後ノ分離ヲ易容ナラシメ且ツ接合ヲ緊密ナラシムニアリ材料ハ「黒鉛」ヲ佳トス

五 安全瓣ハ時々檢査スルコト 陳久ナル金屬瓣ハ屢々高熱ニ暴露セララルニヨリ或ハ抵抗力ヲ加へ或ハ減少セララルコトアリ

六 檢温器ニ水ヲ觸接セザルコト 反セバ水銀離散ノ恐アリ

七 瀝離ノ賦熱ハ徐々タル可キコト 殊ニ二百七十度以後ハ一層注意ス可シ  
八 瀝離ノ放冷又徐々タル可シ決シテ急激ニスベカラズ

第九十四問 帶鈎ノ利害ヲ示セ 【44春東】

帶鈎ハ其利益トシテハ能ク局部義齒ヲ維持ス可ク又之ニ依テ義齒床チ小ニスルチ得之ニ依テ患者ニシテ速ニ義齒ニ慣シムルチ得ベシ其弊害トシテハ齒牙チ牽引シテ動搖セシメ齒牙表面チ磨耗シ齒齦チ壓ニ汚物停滯ノ爲ニ齒牙チ齶蝕ニ陥ラシメ又前齒部ニ於テハ外觀チ損スル等ナリ

第九十五問 硫化「ゴム」ガ如何ナル變化チ受クレバ其實脆弱トナル

ヤ 【44秋地】

硫化「ゴム」ノ硬化ニ際シテハ「ゴム」ノ主成分タル「ポリブレン」ハ熱ノ爲ニ硫黃ト化合シテ硫化「ポリブレン」チ形成スルモノナリ硫化「ポリブレン」ハ  $C_{10}H_{16}S$  乃至  $C_{16}H_{24}S$  ノ範圍内ニ於テ硫化ノ度チ異ニス而シテ硫化ノ進ムニ從テ硬固ナレドモ同時ニ脆弱ナルモノナリ故ニ過度ニ硫化シタルモノハ著シク脆弱ナリ三百二十度以上ノ高温ニ於テ蒸和シタル時著シク長時間蒸和シタル時ニ之チ見ル又蜂窩狀チ呈シタル時ハ殊ニ脆

弱ナリトス

第九十六問 下顎骨折ノ副木調製法ヲ記セ 【44秋東】

印象採得ハ石膏チ佳トス骨折片チ正位ニ整復シタル後之チ印象シ或ハ状態ニヨリ直ニ印象ス骨折片チ整復セズシテ印象シタルモノハ骨折部ニ於テ摸型チ鋸斷シ咬合器上ニ於テ對顎齒ノ咬合ニ應ジテ斷片チ接合シ以テ固有ノ態狀チ現ハサシム

次ニ蠟板チ以テ摸型ノ全齒列被ヒ恰モ假床ノ如クナシ上下兩顎ニ適合スルモノハ白齒部ニ於テ蠟チ以テ連結シ摸型ヨリ去リ「コラスク」ニ埋没ス上下盒ノ分離線ハ上下副木ノ中間ニ在ラシム可シ而シ蠟原型ニハ豫メ錫箔チ裏装スルチ可トス下顎ノミチ被フ副木ニ於テハ其上面ニ對顎面ノ咬合面チ受容スル凹窩チ備ヘシム可シ尙副木ヨリハ二條ノ金屬線突起チ出シ之チ以テ頰ニ壓抵シ之チ以テ固定裝置トナスコトアリ

第九十七問 壓迫鑄造法ノ大要ヲ舉ゲ且二三ノ注意ヲ記セ 【44秋東】

壓迫鑄造法チ述ベンニハ第一鑄造器ノ造構チ知ラザル可カラズ器ハ現今幾百種ノ多キチ算スレドモ何レモ次ノ三部分ヨリ成立ス

一 鑄型筐 ハ大小長短ノ差アリト雖トモ何レモ厚キ金屬製ノ圓筒ナリ

二 加熱装置 ハ鑄型筐ヲ加熱シ金屬鑄解用ニ供ス器ノ種類ニ依リ鑄型筐ヲ他所ニテ加熱シ後器上ニ還置スルモノト器上ニ於テ直チニ加熱スルモノトアリ

三 加壓装置ハ鑄解セル金屬ニ壓ヲ加ヘテ腔型ニ流注セシムルモノナリ氣壓蒸氣壓等ヲ應用ス

今其鑄造方法ヲ概説スレバ鑄造ス可キ物體「インレイ」繼續齒等ノ鑄型ヲ鑄入口成形器ノ針上ニ据ヘ鑄型筐内ニ置キ型材ヲ填充シ型材ノ硬化シタル後鑄入口成形器及ビ針ヲ除去シ鑄型筐ニ加熱シテ蠟ヲ燒燼シ然ル後鑄型筐ヲ加壓装置ノ臺上ニ載セ鑄入口ヲ坩堝ニ代用シテ之ニ金塊ヲ置キ吹火管ニテ加熱鑄金シ鑄融適度ニ達シタル時壓搾セル瓦斯又ハ空氣水蒸氣ニテ壓迫シ鑄型内ニ鑄金ヲ鑄入スルニアリ

注意事項

- 一 金銀ノ如キ高溶金屬ノ壓迫鑄造ニハ其鑄型ヲ高度ニ加熱スルヲ要ス
- 二 鑄型内ノ空氣及瓦斯ハ型材ノ有スル氣孔ガ悉ク之ヲ吸收シ得ザル限リハ特ニ排氣孔ヲ設クルヲ要ス
- 三 金銀ノ如キ高溶金屬ノ鑄造ニハ常ニ鑄融點以上ノ熱ヲ必要トス

四 輕金屬以外ノ金屬鑄融時鑄入口ノ大ナル場合ニハ全部鑄金スルマテ鑄入口チ一時閉塞スルノ裝置ヲ要ス

五 鑄造物ハ金屬ノ何タルニ關セズ使用前必ズ燒還スルヲ要ス

第九十八回 齒冠繼續術ニ應用スル合釘ノ性質形狀ヲ示セ [45春東]

- 一 白金 九 「イリジウム」 一
- 二 純金 九 白金 一
- 三 純金 二 銅 二 白金 一
- 四 純金 一八 銅 四 銀 一

形狀ハ圓形或ハ方形最モ多ク用ヒラル圓形ハ根管ニ適合シ易ク方形ハ廻轉運動ニ抵抗スル力強シ其他三角形星形螺旋形H字狀等モ應用セラレ

第九十九回 義齒床ニ於ケル空室ノ形狀及位置ニ就テ記セ [45春地]

空室ノ形狀ハ一般ニ齒槽穹ノ形ニ一致セシム上顎ニ於テハ「ハート」形ヲ撰ブ但殊ニ堅硬部アル時ハ之ヲ空室中ニ包含セシムル爲特別ノ形ヲ呈セシム長橢圓形等ハ應用セラレ

コトアリ又二個ノ空室ヲ并置スルコトアリ

空室ハ義齒床重心ヲ中央トシテ設置ス可シバーチヤード氏ニヨレバ先ヅ模型上ニ正中線ヲ抽キ次ニ犬齒部ヨリ智齒部ニ線ヲ引キテ一交叉點ヲ得次ニ智齒部ヨリ第一第二小臼齒ノ間ヲ連續ス一交叉點ヲ得兩交叉點ノ中間ニ同距離ノ點ヲ中心トシテ空室ヲ描ク可シ

#### 第百問 開面金冠ノ調製法ヲ問フ 【2秋東】

開面金冠ハ主トシテ前列齒ニ應用ス其調製數法アリト雖左法最モ簡單ナリ

先ツ兩隣接面ノ突出部ヲ削成シテ齒頸ト垂直ナラシメ次ニ齒冠ノ周圍ヲ計測シ二十二「カラット」三十番厚前後ノ金板ヲ以テ環ヲ作り之ヲ齒牙ニ適合シ齒頸線ニ相當スル彎曲ヲ附與シ僅ニ齒齦緣下ニ壓入ス切端ニ近キ部分ハ口蓋面及隣接面ヲ壓接シ唇面ハ齒頸部ニ於テ齒齦緣上ニ約一密迷ヲ露出スルニ止メテ他ハ剪切鑄刮シ齒面ヲ露出セシム

#### 第百一問 硬口蓋缺損ノ補綴裝置ヲ記セ 【2秋東】

硬口蓋缺損ノ補綴裝置ハ通例栓塞子ヲ應用ス 【其條參照】

#### 第百二問 硬護謨蒸和法ヲ問フ 【2秋地】

蒸和チ行フニハ常ニ特別ナル裝置即チ蒸和罐ヲ要ス罐ハ其式種々アレド何レモ罐體及罐

蓋ヨリナル

先ヅ豫メ準備セル「フラスク」ヲ罐體中ニ投シ凡ソ三分ノ二ニ至ルマテ冷水ヲ注ギ罐蓋ヲ被ヒ「バーナー」ニ點火シ放氣管ヲ開キテ罐内ノ空氣ヲ排除ス熱度ノ上昇ハ急劇ニ之ヲ行フ時ハ硬化障害ヲ來ス事アリ必ズ徐々三百二十度ニ至ラシメ茲ニ火熱ヲ調節シテ一定時ヲ保停セシメ後消火シ自然ノ放冷ニ委ス可シ但シ上昇並ヒニ停火ノ爲ニ費スノ時間ハ護謨ノ種類ニ依テ一定セズ前者ニアリテハ凡ソ一時間ヨリ後者ニアリテハ三十分以上種々ナリ加熱裝置ハ瓦斯酒精石油等アレドモ瓦斯ヲ以テ最良トス

口腔外科學

口 腔 外 科 學

第一問 牙關緊急ノ主徵并ニ其原因

原因 原發スルコト稀ニシテ多クハ續發性ニ來リ他部ノ炎症ノ波及スルニヨツテ起ル齒槽膿瘍智齒發生困難口腔炎顎骨骨膜炎骨疽關節「リヤウマチス」拔齒後耳下腺炎頸部蜂窩織炎梅毒破傷風癩痕性癒着中樞神經刺戟等ニ發ス

症候 下顎運動ヲ主宰スル咀嚼筋ハ強直痙攣ヲ起シテ發痛固結シ炎症ハ頰及扁桃腺ニ波及シテ頰部潮紅腫脹シ指壓ニヨリテ疼痛ヲ感ズ上下顎ハ緊合シテ開口スルコト能ハズ顎ヲ運動スレバ劇痛ヲ感ズ談話咀嚼等ハ爲スヲ得ズ僅ニ流動食物ヲ嚥下シ得ルニ過ギズ且ツ全身衰弱發熱ス經過ハ大凡一週日位ニシテ漸次緩解シ開口シ得ルニ至ル

第二問 「スコールフード」ノ原因症候并ニ同患者ニ對スル拔齒術ノ關係

原因 病源ニ就テハ未ダ定説ナシハミルトン氏ハ血液中ニ加里成分ノ缺乏ニヨルト云ヒニイーマル氏ハ毛細管壁ノ變異ニ歸セリ之ガ誘因タルモノハ食料ニ新鮮ナル野菜及果實



ノ缺乏ニシテ食物ノ劇變ニヨリテ起ルコトアリ殖民航海中戰場監獄等ニ於テ多ク發病ス又一種ノ細菌ヲ發見シタリト説クモノアリ

症候 初期ニハ皮膚蒼白衰容ヲ呈シ全身倦怠四肢ノ引曳性疼痛不眠心悸亢進惡寒ヲ發ス口唇ハ淡青色トナリ齒齦ハ紫色又ハ暗赤色ヲ呈シ腫起柔軟海綿様トナリ容易ニ出血シ呼吸惡臭ヲ帶ブ既ニシテ皮膚ハ淡黑色トナリ皮下出血ノタメ紫斑ヲ顯ハシ四肢顔面浮腫ヲ起ス齒齦ハ此際大ニ腫脹シ黑色トナリ絶エズ血液ヲ漏滴シ潰爛シテ腐肉ヲ生シ痂皮ヲ作リ剝離シテ實質缺損ヲ起シ齒牙ハ弛緩脱落シ顎骨骨疽ヲ起ス患者ハ固形食物ヲ取ルコト能ハズ且ツ鼻腸胃尿道内臟等ニ出血シ輕微ノ打撲ニヨリテ皮下溢血ヲ起ス末期ニハ身體衰弱シ短息細脈トナリ僅微ノ勞動ニヨリ危險ヲ將來ス食慾消化ハ障害セラレザルガ如シ本症患者ニハ決シテ拔牙ヲ施スベカラズ若シ拔牙スルトキハ容易ニ止血セズ屢大出血ノ爲メ衰弱シテ斃ルコトアリ

第三問 口蓋缺損ノ種類及主徴

種類 (一)先天性ノモノハ前頭突起ト上顎突起ノ融合不全或ハ左右上顎突起ノ融合不全ニヨリテ起リ同時ニ兔唇及齒槽穹破裂ヲ伴フコトアリ(二)後天性ノモノハ後期梅毒結核

腫瘍外傷等ニヨリテ起ル者ナリ

症候 其主徴ハ軟硬口蓋或ハ兩部ヲ通シテ實質缺損ヲ現ハシ甚シキハ懸壜垂齒槽及上唇迄モ波及ス嚥下及言語ノ障害ヲ起シ嚥下ノ際流動食物ハ鼻腔ニ進行シ音聲ハ鼻音ヲ帶ブ哺乳兒ニ在テハ乳汁ヲ鼻ヨリ流出シ爲メニ營養ヲ障害シ啼聲異常ヲ呈ス

第四問 永劑ハ口内何レノ組織ニ其中毒ヲ逞フルヤ并ニ其徴候及

治法

症候 永劑ヲ持長スル時ハ容易ニ口腔粘膜炎ニ中毒症狀ヲ現ハスモノナリ但シ其劇易ハ用量體質攝生狀態ニヨリ一様ナラズ初口内鹹味ヲ覺エ唾液溢流齒齦ハ潮紅腫脹シ下顎前齒ノ齦緣ニ白線ヲ現ハシ粘膜炎ニ穢汚ノ白斑ヲ生シ漸次深部ニ侵淫シテ潰瘍ヲ作り咀嚼言語壓迫等ニヨリ劇痛ヲ感シ呼吸ハ堪ユベカラザル惡臭ヲ放チ齒牙ハ弛緩發痛シ遂ニ脱落ス齒齦ハ藍色ヲ呈シ潰爛シテ骨疽ヲ生シ治後醜形ヲ殘ス舌ハ厚苔ヲ被リ腫大シ咽喉頰唾腺淋巴腺モ發炎疼痛ヲ感ズ且發熱嘔吐下痢腹痛等ヲ發ス

療法 永劑ノ使用ヲ禁シ初期ニハ鹽剝ノ含嗽及沃度丁幾ノ齒齦塗布ヲ行ヒ重症ニハ鹽酸硝酸銀液格魯兒石灰等ヲ潰瘍面ニ塗布シ壞死シタル齒齦及骨質ヲ除去シ刺戟ノ原因タル

ベキ弛緩齒ハ技去スベシ後過滿酸加里石炭酸曹達等ノ含嗽ヲ命シ尙ホ沃度加里或ハ鹽酸加里ヲ強壯藥ニ混シテ内服セシム

第五問 加答爾性口内炎ノ症候原因及療法

原因 口内不潔分解セル食物生菌困難腐朽齒根齲齒銳緣創傷喫煙草峻烈性或ハ高熱ノ食物及藥品鼻咽喉ヨリ炎症ノ波及等ナリ又熱性傳染病發疹病等ニ繼發ス

症候 口腔粘膜ハ嫩衝灼痛シ暗赤色ヲ呈シ初メハ唾液分泌ヲ減シテ乾燥シ後濕潤ス小兒ハ哺乳障害痙攣等ヲ發シ大人ハ嚥下咀嚼談話困難味覺障害食慾不振等ヲ發シ唇圓形ノ小潰瘍ヲ生シ舌ハ腫脹シテ舌苔ヲ被ル慢性炎ハ粘膜青白色患部硬結肥厚シ呼吸惡臭ヲ放ツ  
療法 口内ヲ清潔ニシ局所刺戟等ノ原因ヲ除キ亞爾加里性及收斂性含嗽劑ヲ命シ疼痛ニハ「コカイン」溶液ヲ塗布シ局所ニハ鉛糖水硼砂蜜硝酸銀液沃度偏里設林等ヲ塗布ス全身病ニ關係スルモノハ全身療法ヲ施スベシ

第六問 下顎脫臼ノ病理原因症狀整復術

病理 口門甚ダシク哆開スレバ顎狀突起ハ關節結節上ニ槓杆作用ヲ營ミ結節ハ支點トナリ囊狀靭帶ハ緊張ノ極底ニ達スレバ遂ニ伸長スルモノナリ此際下顎自體ノ重量及下顎ヲ

下擊スル筋力ノ動作甚シキカ或ハ外力ノ加ハル時ハ關節頭ハ結節ノ前方ニ滑脫シ茲ニ下顎ノ脫臼ヲ來ス稀ニ關節頭ノ顛顛骨關節ニ陷入スルコトアリ

原因 (一)缺伸(二)嘔吐(三)拔齒時ノ不注意ナル加力(四)開口時ニ於ケル打撲(屢偏側ヲ脫臼ス)(五)印象探得時ノ哆開(六)其他習慣性ニ來ル(比較的婦人ニ多シ)

症狀 後脫臼及側脫臼ヲ來スコト稀有ニシテ多クハ前脫臼ナリ其症狀ハ下顎ノ固定狀態異狀ヲ呈シ口門ハ半開ニシテ閉鎖スルコト能ハズ頰齒列及顎ハ前方ニ突出シ頰部ハ扁平トナリテ延長シ耳角前方ニ陷凹ヲ生シ顎狀突起ハ常位ヨリ前方ニ存在ス後脫臼ニ於テハ下顎後退シ側脫臼ニ於テハ下顎傾斜ス

療法 先ツ患者ヲ椅子ニ寄ラシメ介者ヲシテ後方ニ立チ耳邊ヲ固持シ稍仰向セシム術者ハ拇指ヲ下顎臼齒上ニ置キ壓下スルト共ニ他ノ四指ヲ下縁ニ當テ後方ニ押壓シ脫臼ノ徑路ト同一徑路ニヨリテ關節頭ヲ窩内ニ還納ス此際拇指ハ布片ヲ纏ヒ咬傷ヲ防グベシ後提頰帶ヲ施シテ固定ス經過ハ約一週日ナリ其間流動食物ノミヲ與ヘ開口談話ヲ禁ズ習慣性脫臼ハ關節部ニ沃度丁幾ヲ注射ス

第七問 三叉神經痛ノ原因及症候

原因三種アリ (一)末梢性原因ハ神經痛徑路ニ於ケル炎症滲出物或ハ骨痛ニヨル壓迫齒膜炎白堊質肥大症埋沒齒智齒難生上顎齶蓋膿其他顔面ノ軟部及骨ノ諸病ニヨリテ起ル (二)中樞性原因トシテハ腦及其被膜ノ腫瘍梅毒鉛中毒其他中樞器官ノ疾病ナリ (三)反射的原因トシテ歇斯的里泌尿生殖器病麻刺利亞精神感動便秘感冒齒痛等ナリ

症候 本症ノ主徴ハ疼痛ニシテ多ハ發作性ニ來リ持續性ナルコト少ナシ又疼痛ハ多ク限局セズシテ放散シ患部ノ所在ヲ知ルコト能ハズ誤テ多數ノ齒ヲ拔去スル等ノ例ハ屢々見ル所ナリ疼痛ハ刺スガ如ク患側ノ顔面筋ハ痙攣ヲ起シ眼中涕淚ヲ湛エ患者ハ苦悶不快神經過敏トナリ食欲不振睡眠不足ノタメ大ニ衰弱ス而シテ神經痛ノ領域ハ各枝ニヨツテ異ナレリ (一)第一枝ハ前頭額部眼瞼ニ發痛シ (二)第二枝ハ上顎骨眼下部上唇上顎齒ニ發痛シ (三)第三枝ハ下顎齒頰部ニ發痛ス

第八節 上顎齶蓋膿症ノ原因症候及療法

原因 「インフルインザ」鼻腔内化膿症ノ傳播外傷異物ノ竄入齒槽膿瘍ナリ最後ノ原因ニヨルモノハ齒科ニ於テ尤モ必要ナリ上顎第二小白齒及第一大白齒ハ其根端齶ニ近接シ唯菲薄ノ骨壁ヲ以テ境スルノミナリ甚ダシキハ齶内ニ突出セルモノアリ故ニ一度其根ニ膿

瘍ヲ發センカ膿汁ハ容易ニ齶内ニ排出セラレテ蓄膿ヲ起ス

症候 始メ眼下ニ壓重ノ感アリ頭痛及記憶減少ヲ來シ鼻腔或ハ齒槽突起ニ開口セル膿管ヨリ膿汁ヲ漏ス粘膜ノ腫脹ノ爲メ齶孔閉塞スルトキハ膿ノ蓄積ニヨリ齶壁ノ擴張ヲ來シ骨ヲ壞死セシメ穿孔スルコトアリ又外部鼻側ノ軟組織浮腫シテ疼痛ヲ發ス

療法 (一)先ヅ排膿ノ通路ヲ作成スルヲ要ス其方法三種アリ1 第二小白齒或ハ第一大白齒ヲ拔去シ「バー」或ハ穿骨子ヲ以テ齒槽窩底ニ穿孔ス若シ原因タル患齒ノ存在スル時ハ尤モ採用スベキ法ナリ2 犬齒窩ノ部ニ於テ粘膜ヲ切開シ骨膜ヲ剝離シ「トレフィン」或ハ套管針ヲ以テ穿孔ス根治療法トシテハ同部ヲ拇指頭大ニ穿テ齶内ヲ搔抓シ下甲介ヲ破リテ下鼻道ト通セシメ後口腔穿孔部ヲ縫合ス3 屈曲セルミクリツ氏ノ穿刺針ヲ以テ下甲介ノ高サニ於テ下鼻道ヨリ穿孔ス (二)次ニ交通孔ニ「ガーゼ」ヲ栓塞シ或ハ蒸和護膜ノ栓ヲ挿入シ或ハ銀管ヲ挿入シテ癒着ヲ防ギ排膿ニ便シ防腐藥ヲ以テ洗滌シ沃度仿膜ヲ撒布ス

第九節 齶口瘡ノ症候及療法

症候 主トシテ嬰兒ニ來リ「サワロシチエスアルヒカンス」ナル芽生菌ノ寄生ニ歸ス初メ口腔粘膜面ニ點狀或ハ線狀ノ凝乳樣斑ヲ現出シ次テ褐色ニ變シ相連合シテ表面不等ナル

一大班ヲ形成シ深ク粘膜中ニ侵入シテ容易ニ剝離セズ班ハ初メ舌ニ次テ全口腔ニ生ツ途ニハ咽頭後鼻孔ニ蔓延スルコトアリ患部ハ潮紅灼熱ヲ感ツ舌ハ腫裂シ疼痛甚ダシク食物攝取困難口渴嘔吐下痢衰弱等ヲ發ス

療法 食物ハ流動性食物ヲ與ヘ牛乳ニハ石灰水ヲ混合シテ用ユ食器ハ充分消毒スベシ患部ハ重曹溶液ヲ軟布ニ浸シテ器械的ニ清潔トナシ硼酸水鹽酸加里水ノ含嗽ヲ命ジ硼酸佩里設林ヲ塗擦ス重症ニハ「イヒチオール」二百倍硝酸銀溶液一多「プロタルゴール」等ヲ塗布シ強壯劑ヲ内服セシム

第十問 水瘡ノ原因及症候

原因 口腔ニ發スル濕性壞疽ナリ主トシテ二歳乃至五歳ノ小兒ヲ侵シ大人ニハ極メテ稀ナリ通常體質尪弱ナルモノ、重患經過中ニ併發ス即腺病性小兒消化器病者發疹病麻疹瘡熱病肺炎望扶斯麻刺利亞他ノ口腔炎營養不良衣食住ノ不潔等ト關係シ誘因トシテハ一種ノ細菌ナリ

症候 前驅症トシテ齒齦炎倦怠不眠食欲不振口渴顔貌枯瘦蒼白色衰弱盜汗等ヲ發シ約一週日、後口腔齒齦ニ發痛充血腫起癢痒ヲ感シ唾液溢流呼吸惡臭ヲ帶ビ頰及齒齦粘膜ニ濁

汁ヲ滿セル灰色ノ小泡ヲ生ジ潰爛シテ不規則ノ銳緣ヲ有スル小潰瘍ヲ生ジ褐色ノ腐肉ヲ付ス外縁ハ眞紅色ニシテ容易ニ出血ス此瘍潰ハ忽チ組織ニ蔓延シ眞紅色班ハ増大シテ墨色ニ變ジ一週日ヲ經レバ組織全ク破壞シ腐肉ハ剝離シ顎骨ヲ暴露スルニ至ル此際開シ攝食困難トナリ全身衰憊シ敗血性全身病即發熱神識減乏譫語等ヲ發シ小葉性肺炎壞疽性肺炎惡臭下痢等ヲ來シ約二三週日ニシテ死ス

第十一問 蝦蟇腫ノ原因症候及療法

原因 發生ノ原因ニ就テハ未ダ確說ナシハウゼン氏ハプランチンヌー氏腺排泄管ノ閉塞ニ因リ分泌物蓄積ノ爲メ囊腫ヲ發生スルモノナリトシノイマン氏ハ甲狀舌管ノ閉塞ヲ說ク

症候 舌下ノ粘膜下ニ占位スル囊腫ニシテ其球形狀ヲナシ粘膜下ニ移動シ得ベシ又菲薄ナル粘膜ヲ通シテ内容ヲ透見スルヲ得内容ハ粉稠ノ液體ニシテ卵白ニ酷似シ通常無色ナレドモ時トシテ綠黃色帶赤色褐色ナルコトアリ其成分中「ムチン」「ナトロロン」「アルブシナート」ヲ存シ「ローゲン」加里及「プチアリン」ナシ發育ハ緩慢ニシテ初ハ障害ヲ起サルモ増大スレバ言語嚥下ヲ妨グ時ニ病毒ヲ感染シテ炎症ヲ發スルコトアリ

療法 切開スルノミニテハ創口閉塞シテ直ニ再發シ無効ニ歸スルガ故ニ先ヅ古加乙涅ノ局所麻醉藥ヲ施シ有鈎鑷子ヲ以テ舉上シツ、剪ヲ以テ可及的全部ヲ切除シ前壁ノ邊緣ヲ口腔粘膜ニ縫着シ壁ハ電氣熱灼器ヲ以テ一面ニ熱灼ス

### 第十二問 唾腺結石ノ原因及療法

原因 唾液腺又ハ排泄管内ニ結石スルモノナリ其核トナルハ輸出管口ヨリ侵入セル異物ニシテ刷子毛魚骨木片菓子果實片齒牙破片等ナリ之ニ唾液成分ノ燐酸石灰炭及酸石灰ヲ沈着シ紡錘形或ハ橢圓形ノ大豆大ヨリ鶏卵大ニ至ル結石ヲ作ル或種ノモノハ細菌ヲ混ズルコトアリ

療法 臟細針ヲ管口ヨリ刺入シテ其音響ニヨリ或ハ試穿ヲ施シ液ヲ採取シテ豫診シ口腔内ヨリ唾石所在部ヲ切開シ結石ヲ摘出シ後口腔ヲ洗滌シ清潔ニ保護セバ創口ハ直ニ治癒シ唾液ノ排泄常態トナル但シ腺實體ヲ切開シタル時ハ縫合スルヲ要ス

### 第十三問 下顎骨折ノ療法

一 復舊 先ヅ折片ノ轉位ヲ復舊スルヲ要ス若其復舊困難ナルトキハ麻醉ヲ施シ後之ヲ固定ス

二 固定 正位ニ固定スルハ種々ノ方法アリ(一)輕症ニハ頤投石帶四頭提頸帶或ハ複項頤帶等ノ繃帶ヲ施シ上下兩顎齒牙ヲ固ク相接着セシム(二)頤部ヲ印象シ適當ノ材品(直ニ偏答百兒加ヲ軟化シテ作ルモ可ナリ)ヲ以テ頤覆蓋ヲ作リ後頭帽ト共用シテ固定ス前者ヨリハ完全ナリ(三)骨折ノ兩側ニ於テ下顎前後面ノ齒齦ヲ切開シ鑽骨器ヲ以テ骨ヲ鑽穿シ銀線ヲ用ヒテ兩折片ヲ固定ス(四)骨折兩側ノ齒牙ヲ互ニ結紮シテ骨折端ヲ接着セシム(五)骨折部ニ近キ兩側ノ齒牙ヲ對合齒ト結紮シ各骨片ヲ同高ニ支持ス(六)下顎ヲ印象シ金屬若クハ蒸和「ゴム」ヲ以テ齒牙ヲ除キテ下顎全面ヲ被フ齒間副木ヲ製シ四個所位ニ於テ齒牙ト結紮シ尙外部ヨリ繃帶ヲ施ス(七)副木ハ又金屬線ヲ以テ造リ齒列ヲ圍繞シ白齒部及前齒部ニ於テ唇面ノ副木ト舌面ノ副木トヲ共ニ結紮ス(八)復舊ニ先チテ印象シ之ニヨツテ副木ヲ製シ骨折部ニ於テ兩半部ニ切斷シ各半部ヲ顎ニ固定シ後「スクリウ」ヲ以テ兩者ヲ正位置ニ保存ス(九)副木及頤覆蓋ヲ製シ下顎前面ヲ超エテ「スクリウ」其他ノ裝置ヲ以テ緊束ス

三 後療法 顎ニ固定セバ患者ヲシテ可及的開口セシメズ專ラ流動食物ヲ與ヘ口内ヲ清潔ニ保チ局部ニ沃度丁幾ヲ塗布スレバ四乃至六週ニシテ治癒ス

**第十四問 顎竇水腫ト齒根囊腫トノ鑑別**

一 内容物ハ殆ンド類似スルト雖水腫ハ囊腫ニ比シ稍粘調ニ過グルノ感アリ

二 囊腫ハ必ズ齒膜炎或ハ齒槽膿瘍ニ罹レル概往症ヲ有スルモ水腫ハ然ラズ之ヲ缺クコト多シ

三 水腫ハ鼻腔ニ其病機ヲ波及シテ鼻粘膜肥厚スルヲ見ルモ囊腫ハ然ルコトナシ

四 水腫ハ鼻腔ヨリ顎竇ニ向テ穿刺シテ内容物ヲ採取スベキモ囊腫ハ然ラズ

五 腫脹ノ部位ハ水腫ニ於テハ上顎竇外壁ニ相當シ囊腫ニ於テハ稍下方ニシテ齒根部ニ相當ス

**第十五問 潰瘍性口性炎ノ原因**

原因 小兒ニ多ク稀ニ流行性ニ兵營寄宿舎學校等ヲ襲フコトアリ局所的原因ニヨルコト少ク主トシテ腸胃扶斯發疹熱白血病糖尿病佝僂病瘰癧質百日咳其他非衛生的狀態ニ由來ス

**第十六問 齒間副木ノ種類二三ヲ擧ゲ其適應症ヲ記セ**

齒間副木ハ上下顎骨ノ骨折ニ當リ之ヲ齒間ニ裝置シ以テ骨切端ヲ互ニ正位置ニ固定シ其

移動ヲ防ギ再ビ相癒着スルニ至ラシムルモノナリ

一 單純ナルモノハ洋銀線ヲ齒穹ノ内外ニ沿テ彎曲シ其兩端ヲ纒着シテ格狀裝置トナシ之ヲ齒穹ニ適合シ數ヶ所ニ於テ齒牙ニ結紮ス

二 骨切部ヲ正位ニ整復シテ齒牙及齒齦部ヲ印象シ摸型ヲ作ル若シ癒着セル時ハ轉位ノ儘印象シ摸型ヲ鋸斷シテ正位ニ結合シ摸型ヨリ陰陽金屬型ヲ作り其間ニ金屬板ヲ介在シテ壓印シ數齒或ハ全齒冠部ヲ被フベキ副木ヲ作り「セメント」ヲ以テ齒穹ニ合着ス

三 印象時對顎ノ印象ヲモ採得シ摸型ヲ作りテ咬合ヲ正シ兩摸型ニ「パラフィン」假床ヲ作り兩假床ヲ白齒部ニ於テ結合シ前齒部ハ兩床ノ間ニ空隙ヲ存シ食物ノ攝取ニ便シ之ヲ通法ニヨリ蒸和護謨ト交換シ蒸和護謨副木トナス之ヲ兩顎齒間ニ置キ外部ヨリ繃帶ヲ施ス

四 前者ノ蒸和護謨ニ代フルニ金屬板ヲ壓印シ兩床間ノ白齒部ニ金屬板ヲ介在シ兩床ヲ纒着結合ス

**第十七問 下顎一部切除後ノ瘻痕收縮ヲ豫防スル二三ノ方法**

一 ハンゼマン氏ハ「アルミニウム」板ヲ顎骨切除部ノ形ニ彎曲シ板ノ兩端ヲ銀線ヲ以テ顎骨ニ結紮セリ尙板ニハ多數ノ穿孔ヲ施シ洗滌ニ便ス

二 ザウエル氏ハ金屬線ヲ以テ兩側ニ殘存セル數齒ヲ圍繞スル格狀裝置ヲ作り顎切除部  
 ナ一弦線ヲ以テ連續シ之ヲ細線ヲ以テ齒牙結紮固定ス  
 三 ハール氏ハ顎骨切除ニ先チ顎ヲ印象シ石膏模型ヲ作り後顎骨ノ切除部ヲ鋸斷シ去リ  
 蒸和護膜ヲ以テ之ヲ形成シ尙ホ延張シテ殘存齒ヲ圍繞セシム且對顎齒ノ頰側ニ當ル可キ  
 鉸ヲ斜ニ附屬セシメ顎骨ノ内方轉位ヲ防グ

第十八問 齒齶腫「エプーリス」ノ種類及其鑑別

本來「エプーリス」ナル語ハ齒齶ニ發生スル總テノ腫瘍ニ對スル名稱ナレドモ近時特ニ齒  
 齶ノ纖維腫及肉腫ヲ「エプーリス」ト稱ス其ハ他部ノ腫瘍ニ比シ特長アルガ爲ナリ多少重  
 ナテ起リ切除後再發ノ稀ナルコト是ナリ而シテ纖維性「エプーリス」ト肉腫性「イエー  
 リス」トハ互ニ移行シ中間的ノモノ多シ一般ニ齒齶ニ發生スル腫瘍ハ肉腫及纖維腫ヲ  
 最多トシ痛腫之ニ次キ他ノ瘍腫ハ比較的少キモノナリ  
 纖維腫ハ其特腫ノ硬度緩徐ナル生長障害ノ缺如周圍組織ニ破壞的影響ヲ及スコトナク又  
 外傷ヲ受ケザル限ハ潰瘍ヲ呈セザル等ニヨリ他ノ腫瘍ト區別シ得可シ齒齶ノ炎症肥大ト  
 ノ鑑別ハ彼ノ増大ノ迅速ニシテ炎症性症狀ヲ有スルニヨリテ知ル可シ肉腫ハ痛腫ト鑑別ス

ルヲ要ス其壯年者ニ多キコト淋巴腺ノ硬結少キコト出血性大ナラザルコトニヨリ知ル可  
 ク尙組織的検査ニ依リ容易ニ辨別スルヲ得可シ

第十九問 齒牙系統ヨリ發生スル腫瘍ノ名稱ヲ記セ

齒牙系統ヨリ發生スル特有ノ腫瘍ハ左ノ如シ

齒根囊腫

濾胞性齒牙囊腫

顎骨囊腫

齒牙腫 (數種ニ分類セラレ)

尙齒ノ組織ニモ見ル纖維腫癌腫肉腫等モ亦齒根膜ヨリ發生スルコトヲ得可シ

第二十問 齒槽突起骨疽ノ原因及療法ヲ示セ【新】

原因 打撲、器械ノ穿通銃創等ニ因ル外傷齒膜炎齒槽膿瘍智齒難生等ヨリ來ル骨膜炎及  
 骨髓炎燐水銀亞砒酸等ノ中毒諸熱性病發疹病結核微毒等ヲ原因トセル骨膜ノ失活ヲ以テ  
 其主因トナス

療法 患部齒齶ヲ切開シテ膿汁ヲ排除シ腐骨ハ自然ノ剝離ニ任スコシト雖モ骨ノ新生ヲ

認メ難ク且ツ骨疽ノ増殖スル傾向アレバ速ニ之ガ切除ヲ行ヒ同時ニ造骨細胞ノ機能促進ノ目的ヲ以テ芳香硫酸蕃椒丁幾等ノ刺戟藥ヲ用ヒ病勢挫折ノ目的ニハ「バイロゾン」「カルボル」水等ヲ用ヒ且病竈ニハ消毒「ガーゼ」ヲ填塞シ常ニ防腐性含嗽劑ヲ與ヘテ口腔ノ清潔ニ注意シ現存セル炎症ニハ沃度丁幾ヲ塗敷シ消散ヲ圖ル可シ

腐骨切除法 骨疽小ナレバ瘻孔或ハ拔齒創等ヲ擴大シ大ナルモノハ先齒槽突起ノ粘膜附着部ヲ切離シ槓杵ニテ齒齦ト共ニ骨面ヨリ剝離シ便宜各種ノ鉗子鑷子等ニテ患骨ヲ除去ス可シ然ル後銳ヒテ用ヒテ近圍健康骨ノ幾分カチモ匙抓シ消毒「ガーゼ」ヲ壓入シ尙日々之ヲ交換ス可シ

更ニ一方ニハ全身ノ健康ニ努メ滋養強壯藥ノ給與新鮮空氣ノ呼吸適度ノ運動等ヲナサシム

△又其原因化學的毒素ニアルモノハ解毒ノ處置ヲ必要トス

第二十一問 三叉神經第三枝ノ神經痛ノ原因及療法 [44春地]

原因 周圍ノ炎症腫瘍動脈瘤滲出物白堊質肥大潜伏齒智齒難生ニヨル神經ノ壓迫外傷梅毒神經炎ニヨリ又泌尿生殖器腸胃病寒胃「ロエマチス」「マラリヤ」貧血萎黃病糖尿病尿病汞劑中毒等ニヨル

療法

原因タル可キ疾患ヲ除キ「フエナセチン」「アンチピリン」「アスピリン」「ピラミドン」等ヲ與ヘ頰部ニ「アトロヒネ」「アコニツト」「丁幾」「コロロフォルム」「エーテル」ヲ貼布シ耳内ニ「エーテル」ヲ滴下ス尙溫罨法感傳電氣ヲ施シ湯治轉地療養ヲナサシメ新鮮ノ空氣ト滋養物ヲ以テ營養ヲ佳良ニス難治ノモノニハ神經ノ切斷及根救法ヲ行フ

第二十二問 齒性安魏那ノ類症鑑別如何 [44春東]

齒性安魏那トハ齒牙疾患ニ基因スル咽頭ノ粘膜炎ナリ殊ニ智齒難生ヨリ來ルコト多シ類症鑑別トシテハ「ザフテリー」梅毒原發性ノ扁桃腺炎等ナリ「ザフテリー」トハ義膜ノ有無ニヨリテ區別ス可ク細菌的檢査ヲ施セバ最モ確實ナリ梅毒トハ感染ノ事實及各淋巴腺ノ腫脹ニヨリ鑑別ス可シ原發生ノ扁桃腺炎トハ症狀類似スレドモ既往ノ症候ヲ聞キ且ツ齒牙齒患トノ關聯ノ有無ヲ見レバ之ヲ得ベシ

第二十三問 齒齦切斷術ノ適應症及其術式如何 [45春東]

本法ハ一千八百七十二年ウヰヰツチエル氏ノ始メテ唱道シタル所ニシテ 一根管狹小ナル齒牙ニ器械ノ操作困難ナル白齒其他 二總テ完全ナル拔齧不可能ナル際ニ適用ス 其術式ハ先ツ患齒ニ亞砒酸ヲ貼布シ二十四時間乃至四十八時間ヲ經過ノ後之ヲ除去シ消

其術式ハ先ツ患齒ニ亞砒酸ヲ貼布シ二十四時間乃至四十八時間ヲ經過ノ後之ヲ除去シ消



毒藥ヲ以テ洗滌シ髓腔ヲ開鑿シ髓室內ノ齒髓ヲ悉皆剔除シ後根管ヲ探ルニ多少ノ知覺存スルナラバ即チ本手術ノ理想的狀態ナリ(若シ此際知覺無キカ或ハ嗅氣ヲ感ズルガ如キハ到底保存ノ價値ナシ)茲ニ再三消毒藥ニテ窩内ヲ洗滌シ防濕法ヲ施シ左ノ藥劑ヲ切斷部ハ勿論髓腔底ニ丁寧ニ貼布シ髓室壁ヲ酒精ニテ清拭乾燥セシメ更ニ「セメント」充填ヲ施シ凡ソ一週日ノ經過ヲ試シ後永久充填ヲ行フ可シ

處方

- 一 酸化亞鉛八、〇 假性硫酸亞鉛二、〇 「トリクレゾール」三、〇 「オイゲノール」一、〇 「ホルマリン」一、〇
- 二 「オイゲノール」五、〇 「チモール」二、〇(以上液體) 酸化亞鉛二〇、〇 「チモール」〇、二(以上粉末)
- 三 鹽酸古加乙涅一、〇 「チモール」一、〇 「ホルマリン」十滴 酸化亞鉛二、〇

三法何レモ研和煉合ス

以上ノ内第一法ハシヨイユル氏ノ處方ニシテ腐敗齒髓ノ根管充填材トシテ使用セラレタルモノナリシガ近時石原久先生ノ鼓吹ニヨリ其勢チナスニ至レリ

第二法ハアブラサム氏ノ處方ニシテ廣ク使用セラレ

第三法ハベンネツケン氏ノ處方ナリ「ホルマリン」ノ含有ニヨリテ殘存齒髓ヲ固死無菌ノ纖維様物ニ變化セシメント謀レルモノナリト雖モ時トシテ齒膜ヲ刺戟スルコトアリ寧ロ前二法ヲ勝レリトス

第二十四問 舌ニ生ズル潰瘍ノ種類及鑑別 【2秋東】

舌ニ生ズル潰瘍ハ原發生トシテ (1) 瘡瘍性潰瘍 續發生トシテ (1) 瘡瘍性潰瘍 (2) 癌性潰瘍 (3) 結核性潰瘍等來ル 鑑別ニハ先ヅ診斷上ノ立脚點トシテ潰瘍ノ部位、蔓延性ノ有無、潰瘍緣ノ性質、底面ノ條態、疼痛ノ有無等ヲ診査スルヲ要ス

鑑別	發生部位	蔓延有無	緣ノ性質	底面ノ條態	疼痛ノ有無
瘡瘍性	舌背、舌緣ニ多シ	稀ニ口底、齒齦ニ蔓延ス	周圍浸潤アリ	有害物ヲ去レバ純粹化膿面トナル	觸ルレバ劇痛アリ
微毒性	主トシテ舌背前緣、稀ニ舌根	口底附近ニ蔓延スルコト多シ	軟クシテ銳利	豚脂様	無痛

附  
錄

痛性	舌縁ヨリ起ル モノ多シ	常ニ口腔底附 近ニ蔓延ス	不規則強硬	不出血易容 上皮下性ノ絨毛 チ有ス	疼痛輕微但シ 末期ニハ劇痛 アルコトアリ
結核性	舌尖ニ近ク又 ハ舌縁	蔓延稀ナリ	特有ナル鑿堀 狀	編物狀チ呈ス	酸及溫度ニ由 テ疼痛アリ

以上ノ外既往症、年齢、特異療法ニ對スル反應ノ有無又必要ナリ例之ハ黴毒性ノモノハ其歴史チ有シ驅黴療法ニ反應シ結核性モノハ「ツベルクリン」ノ眼反應ニ陽性痛性ノモノハ多クハ高年者ニ來ル尙不明ナルモノハ組織検査チ行フ

附  
録  
1

願書式 (用紙美濃紙)

醫術開業試驗願

收入  
印紙

本籍  
居所

族稱

出願試驗ノ種類  
前期(齒科)試驗又ハ後期學說(齒科學說)試驗  
後期(齒科)試驗又ハ後期實地(齒科實地)試驗  
何地

試驗ヲ受クヘキ地

氏

名

年月日生

右試驗相受度別紙履歷書戶籍謄本及寫真相添此段相願候也

右氏

名

文部大臣宛

履歷書式 (用紙美濃紙)

履歷書

受 驗 資 格

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業  
 一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何病院ニ於テ又ハ開業醫何誰ニ就キ何科  
 實習

一 明治何年何月何地ニ於テ前期試験(後期學說試験齒科學說試験)ヲ受ケ及第證書學說合  
 格承認證第何號ヲ受ケ

試驗資格以外ノ學業

一 明治何年何月何府縣何市郡何小學校ニ於テ尋常高等小學校卒業又ハ何學年修了  
 一 明治何年何月何府縣何中學校ニ入り何年何月卒業又ハ第學年級修了  
 一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業  
 職 業

族 籍

氏

年 月 日 生 名

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡ニ於テ何職ニ從事シ又ハ何業  
 右之通相違無之候也 營ム

族 籍

氏

名

前期試験資格ノ確實ナルコトヲ保證ス

明治何年何月何日

何學校

氏

名

● 受験注意要項

一 試験ハ通常四月九月兩度ニシテ願書ハ六月中若クハ一月中地方廳ニ差出スヘシ但シ實  
 地試験ハ臨時施行セラレハコトアリ  
 一 寄留地ニ於テ試験ヲ受ケントスル者ハ豫メ戶籍謄本ヲ原籍役場ヨリ取り寄セ置クヲ要  
 ス

一 學說試験ハ地方廳所在地ニ於テ實地試験ハ東京市及大阪市ニ於テ施行セラレ  
 一 願書差出ノ節ハ同一ノ實印ヲ持參スヘシ

- 一願書、履歴書及、寫眞ハ散亂セサル様紙綴ニテ綴込ムヘシ
- 一實地試験ノミ受クルモノハ願書差出ノ際、（第10條） 證ヲ持參スヘシ
- 一總テ收入印紙ハ地方廳ニ於テ掛官之ヲ消印ス
- 一總テ書類ハ綴込ニ便ヤルタメ左右天地トモ約一寸程明ケ置クヘシ
- 一試験出願迄ハ其願書ニ學說試験ヲ受ケントスル場所ノ外實地試験ヲ受ケントスル場所  
ナモ附記スヘシ（願書雜形參照）
- 一訖驗出願者ハ期日數日前地方廳（但シ東京市ニテハ文部省內醫術開業試験事務所）ニ出  
願ノ上受験證ヲ受取ルヘシ
- 一實地試験出願者ハ受験前日ノ通知ヲ受ケントスル場所ヲ届出ツヘシ
- 一學說並ニ實地試験ニ及第シタルモノニハ內務省ヨリ及第證ヲ下附セラルヘシ
- 一學說合格承認證並ニ及第證ヲ下附セラルトキハ實印ヲ持參スヘシ

58

54

終

